吾妻町の文化財 7

弘法原遺跡

1983

長崎県吾妻町教育委員会

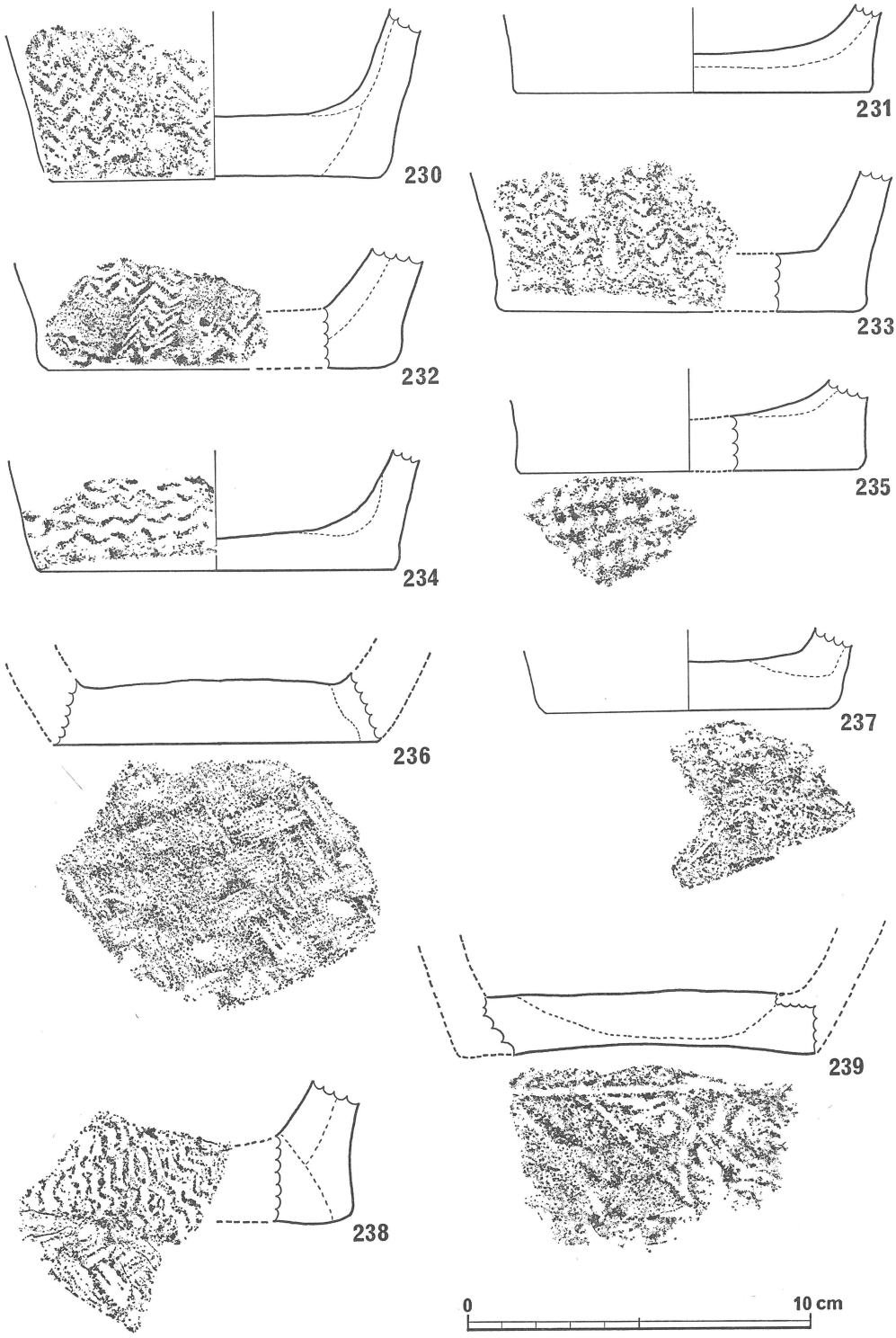


Fig. 38　Ⅰ-1類底部実測図②（½）

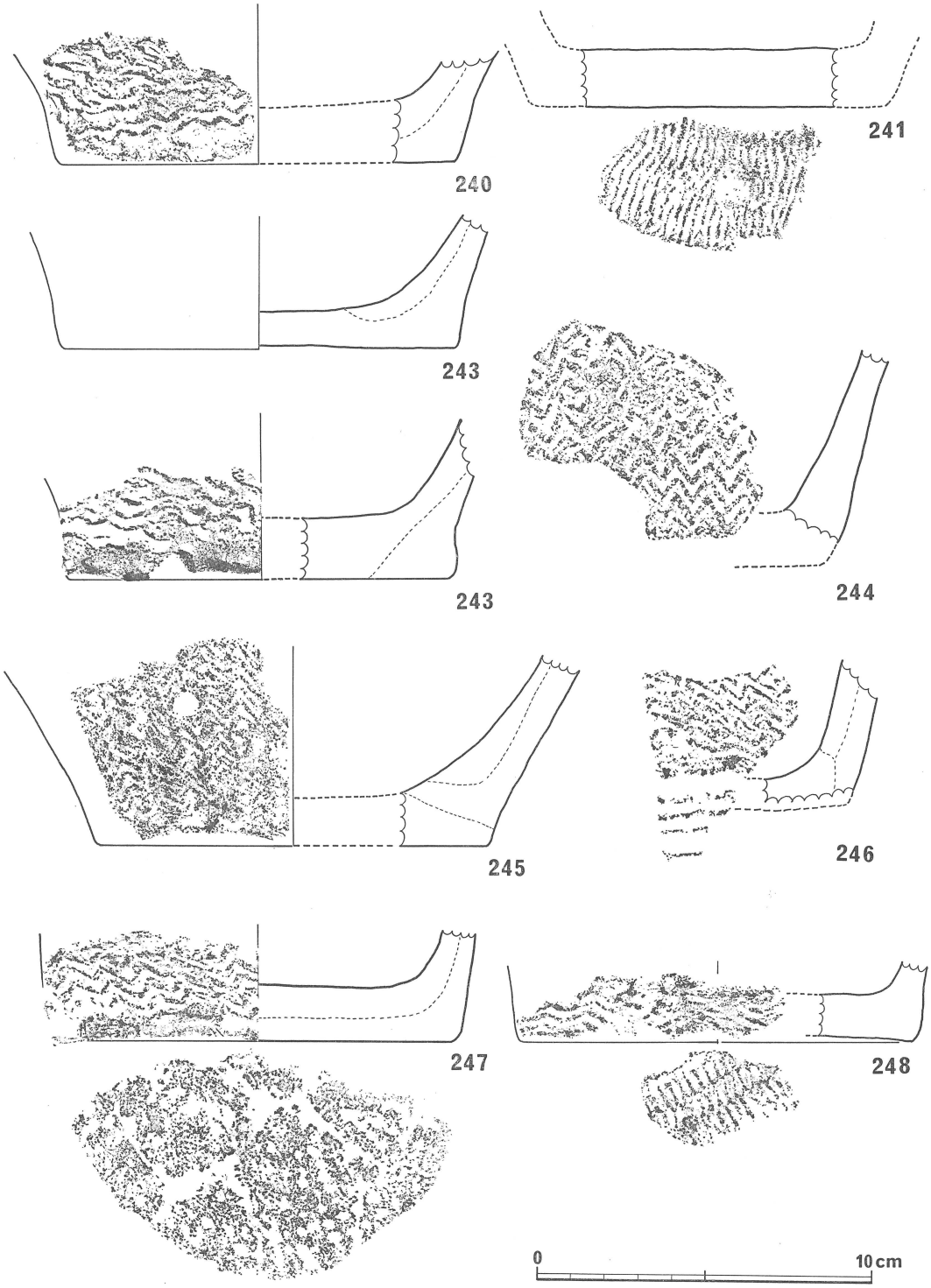


Fig. 39　Ⅰ-1類底部実測図③（½）

Ⅰ－2類　楕円文（Fig. 40～44, PL. 48～50）

194点出土しているが，７割強はⅡ層出土，他はⅢ層出土である。なお，不明分を除く出土土器の中では5.2%を占める。器形は単純で一種しかない。山形口縁で分類したＦタイプで，口縁が外反し，胴部はふくらみ丸底状の平底へ移行する。施文方法によって次の４種に細分する。なお，施文は楕円のみで他種文様との組み合わせはみられない。

a　外壁には全面，内壁には口唇部に縦方向の原体条痕とその下に横位の楕円文を配するもの（**254～259**）

b　外壁には全面施文するが，内壁には口縁に平行した回転押圧沈線文を配する。又，口唇には刻目を持つ（**260～264**）

c　外壁には全面，内壁には口縁部のみ楕円文を施すもの（**265**）

d　外壁のみで，内壁には何ら施文しないもの（**267**）

254は大型の深鉢破片である。口縁部は大きく外反し，胴部はふくらむ。茶褐色を呈し，胎土はよく精選され焼成も良好である。外壁には大きく深い楕円文を横位に施す。原体値は長さ4.2cm，直径１cmに計測し得る。内壁には，口唇から原体を利用したものと思われる縦方向の条痕が施され，その下に外壁原体とは異なる楕円文を横位に配する。**256**と**259**は器形・胎土・焼成・施文法共に共通する特徴をもつ。同一個体かも知れない。**259**は口唇部が僅かに欠ける

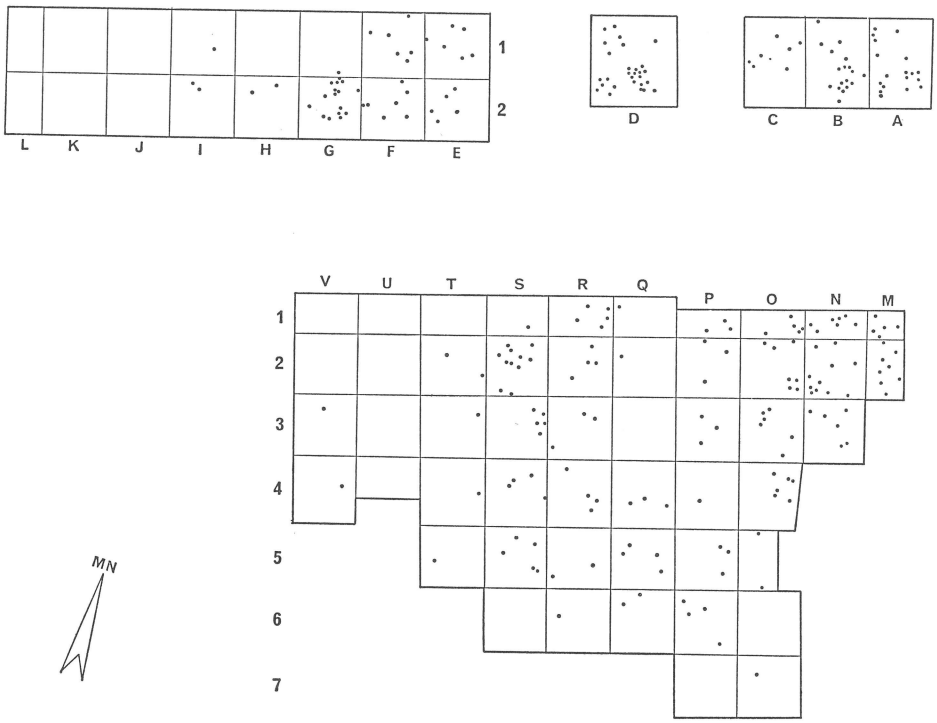


Fig. 40　Ⅰ-2類（楕円文）土器分布図

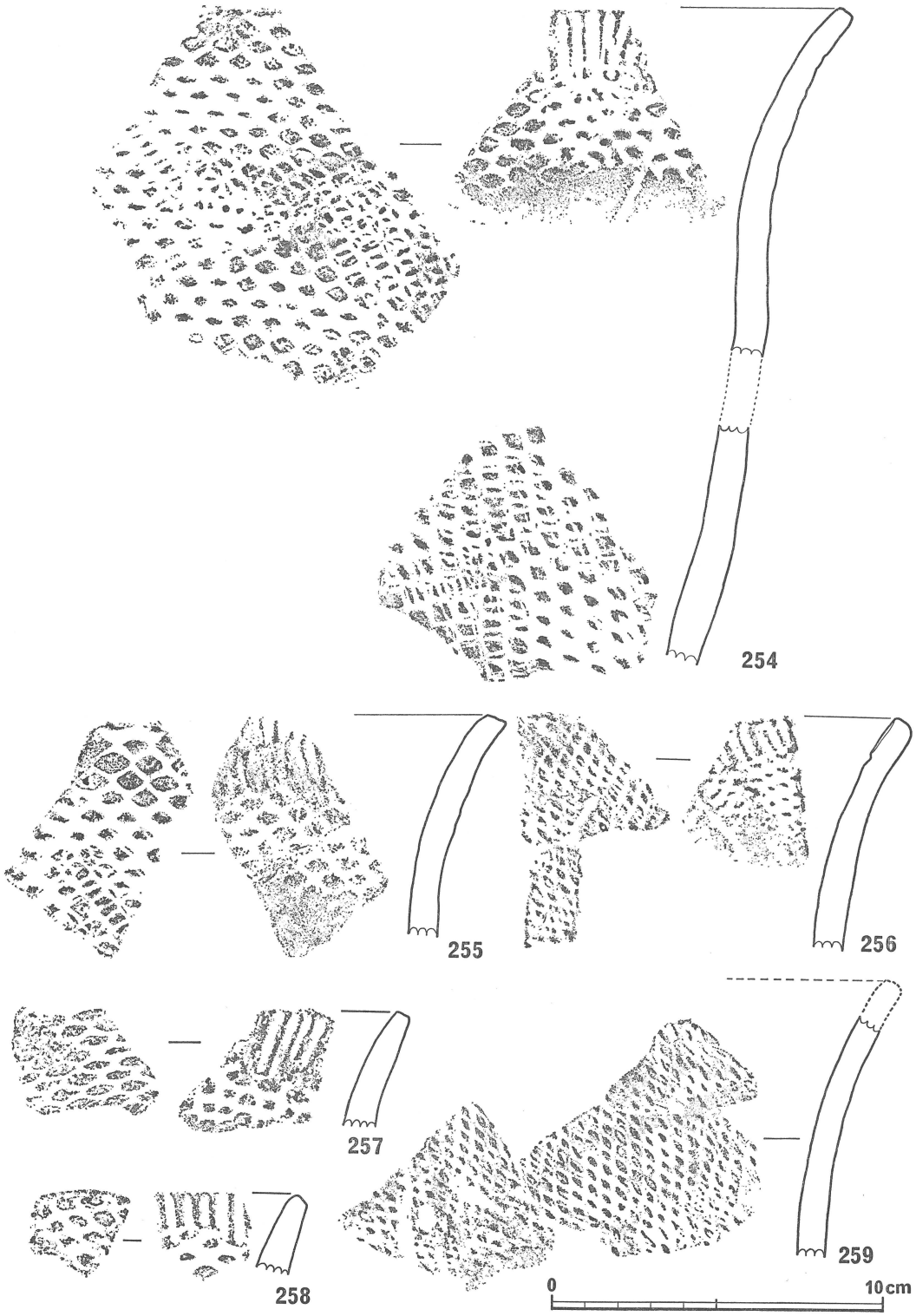


Fig. 41　Ⅰ-2類土器実測図①（$\frac{1}{2}$）

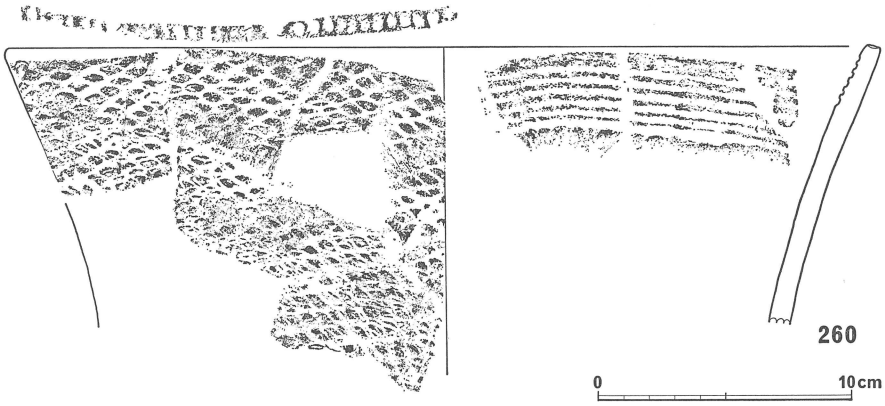


Fig. 42　Ⅰ-2類土器実測図②（$\frac{1}{2}$）

がよく精選された胎土を用いる。原体値は長さ3.7cm，直径0.73cmである。256と同様小さく浅い楕円文を右下り気味に施文する。

260～264はｂタイプである。260は大型の深鉢破片で，口径34.4cmを計る。黄褐色を呈し，胎土には砂粒・雲母を含む。施文は外壁には全面に施し，内壁には口縁に平行する回転押圧沈線文を配する。又，口唇部には原体先端部による太い刻目を施す。265はＣタイプで１点のみの出土である。暗茶褐色で胎土には多量の砂粒を含む。焼成はやや甘く，内壁に一部剝落がみられる。施文は内，外壁共に小粒な同一原体による横位施文である。

266～267はＤタイプで，施文は外壁のみに限定している。施文方向は，共に口縁下で横位，胴部で右下りである。

268～278は胴部である。施文原体は小粒なもの（268，271，274）と粗大なものとが認められる。施文方向は，横位のものと，右下りのもの，そして右上りのものや縦走するものなど多彩である。焼成は何れも良好である。272は口辺部に近く，上部内壁に横位の施文がみえる。色調，施文からみてＡタイプのものと思われる。なお外壁にはススが附着する。

279～280は底部である。楕円文の底部は３点出土しているが，内２点を図示する。279は，やや丸底に近い平底である。黄褐色で焼成は良好，よく精選された胎土を用いる。器形は底部から胴部が大きく外側へふくらむもので，施文原体の特徴などから254と同一個体かと思われる。なお施文にあたっては，破片中程に施文の段差が認められることと更にその部分が粘土の継ぎ目にあたることから，土器製作時には輪積みの各段毎に施文したことを示す好例である。

280は底径9.6cmの平底である。279と同じく胴部は外側へ大きく張り出す。黄褐色で焼成は良好，胎土には砂粒・長石・雲母を含む。

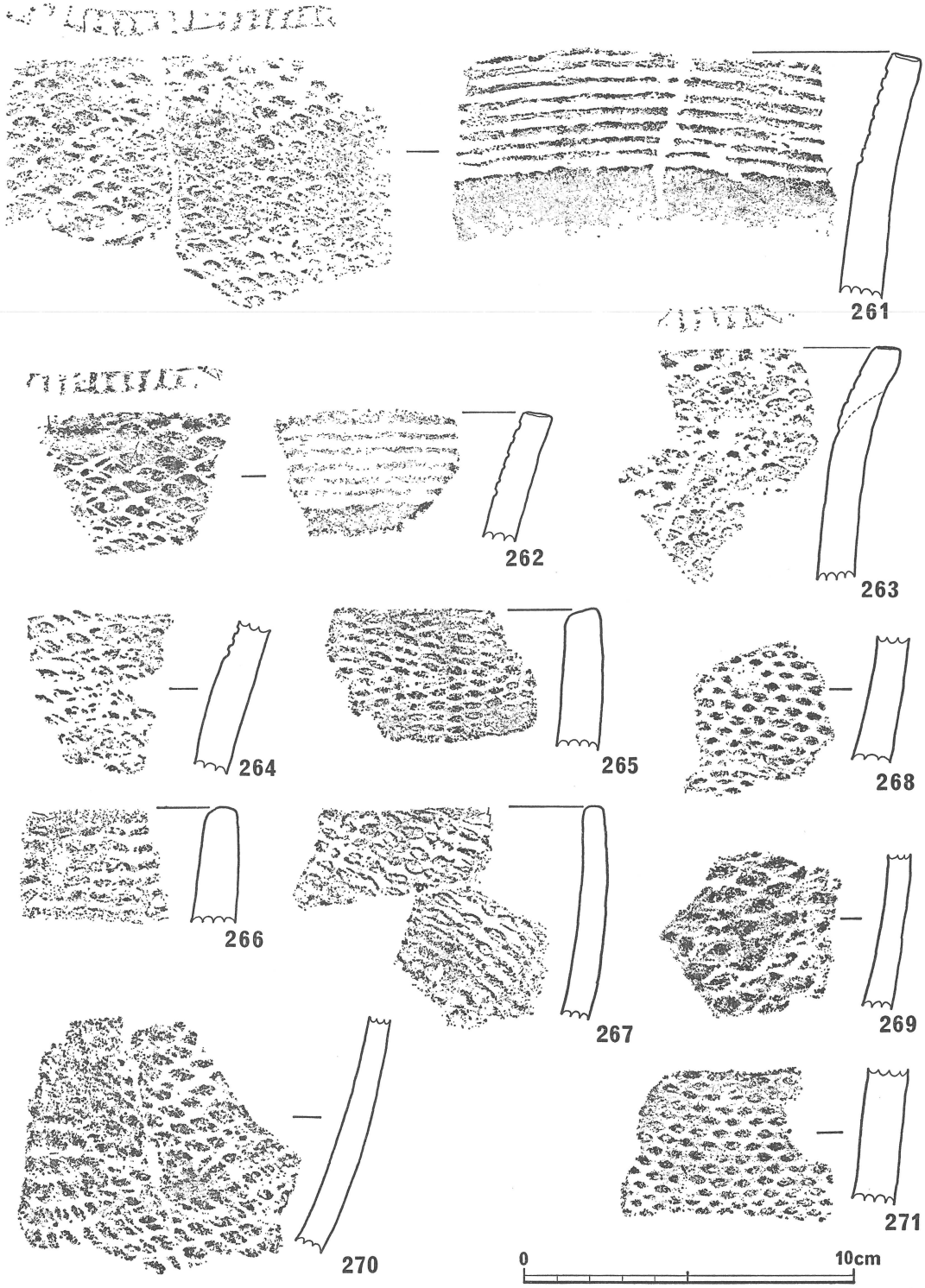


Fig. 43　Ⅰ-2類土器実測図③（½）

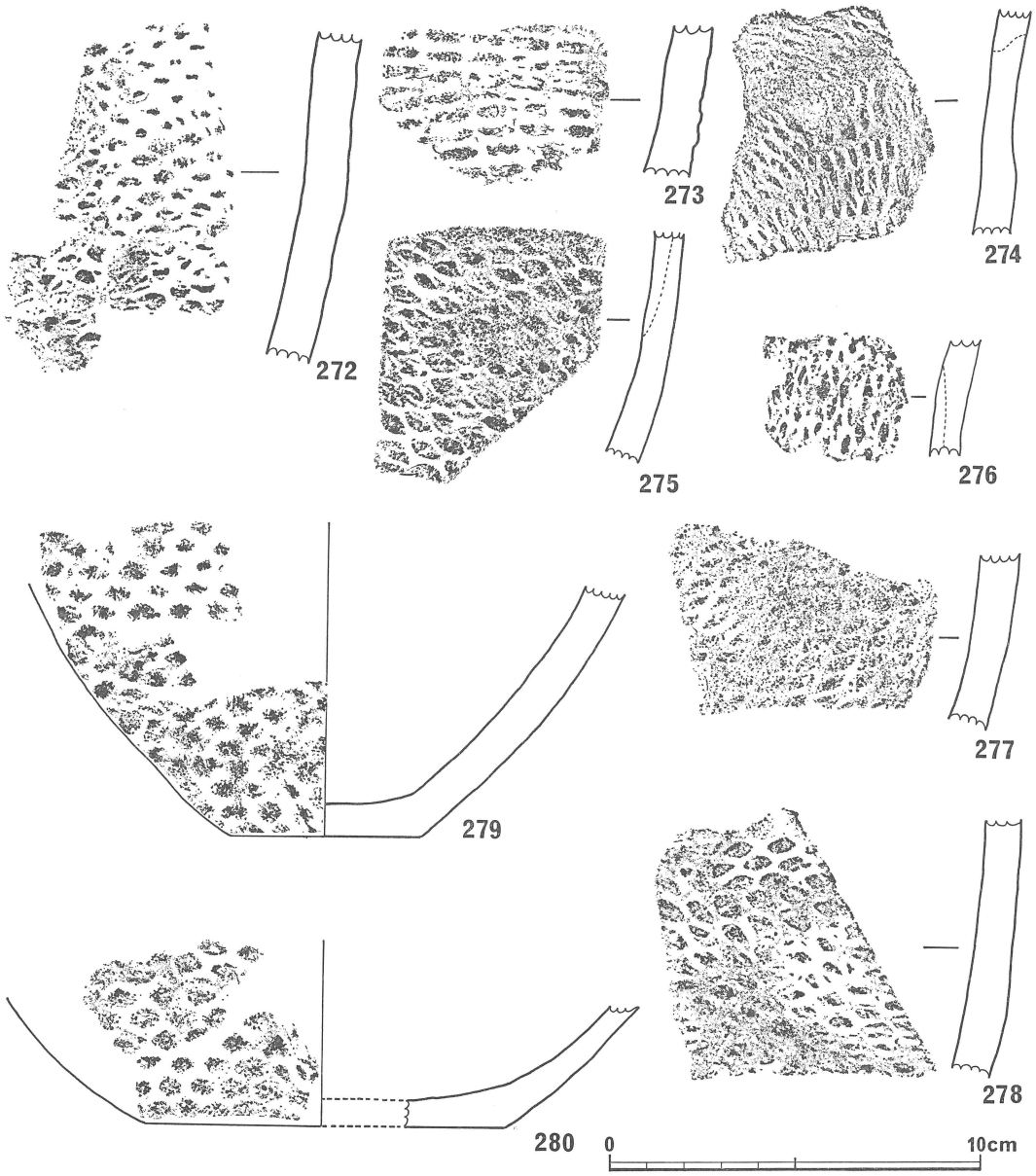


Fig. 44　Ⅰ-2類土器実測図④（$\frac{1}{2}$）

Ⅰ－3類　格子目文（Fig. 46～49，PL. 51～53）

格子目文は全部で264点が出土した。これは不明分を除く全土器の7.1%にあたる。ここではその内代表的な例37点を図示する。**281～301**は口縁部にあたる。山形文の例と同じ基準で器形を細分する。なお施文部位は外壁のみに限定され内壁に施す資料はない。

281～295は口縁から直線的に内傾するＡタイプである。施文方向は横位のものと右下りのものが大部分であるが，左下りの例（**289**）と縦走する例（**290**）が認められる。口唇部は大部分が丸く整形するが，平担なもの（**289**，**291**，**293**，**295**）も目立つ。**295**は外壁口縁直下は山形文，それ以下を格子目文で施文する例で，この組み合わせは１点のみである。

296～301は口縁が直口するＣタイプで，格子目文に明瞭なＢ，Ｅタイプは見受けられない。施文は大部分横位である。なお，**300**には口縁下に無文帯がみられる。**296**は深鉢口縁で淡黄色を呈し，胎土には砂粒・石英粒・長石・雲母を含む。口唇部附近に表裏より指頭による押圧調整を加えている為に一部施文が消され，又器面にも凹凸があらわれる。口唇には一条の浅い沈線が引かれる。**301**は，口径20.6cmの中型の深鉢口縁である。大ぶりで雑な横位施文を施す。黄褐色で焼成は良好。胎土には砂粒・雲母を含む。口唇部は平担である。

302はＤタイプ。口径21.8cmを計る大型の口縁破片である。茶褐色を呈し，胎土には多量の砂粒の他に石英・長石，そして風化した細礫を含む。胴下半部には多量のススが附着する。

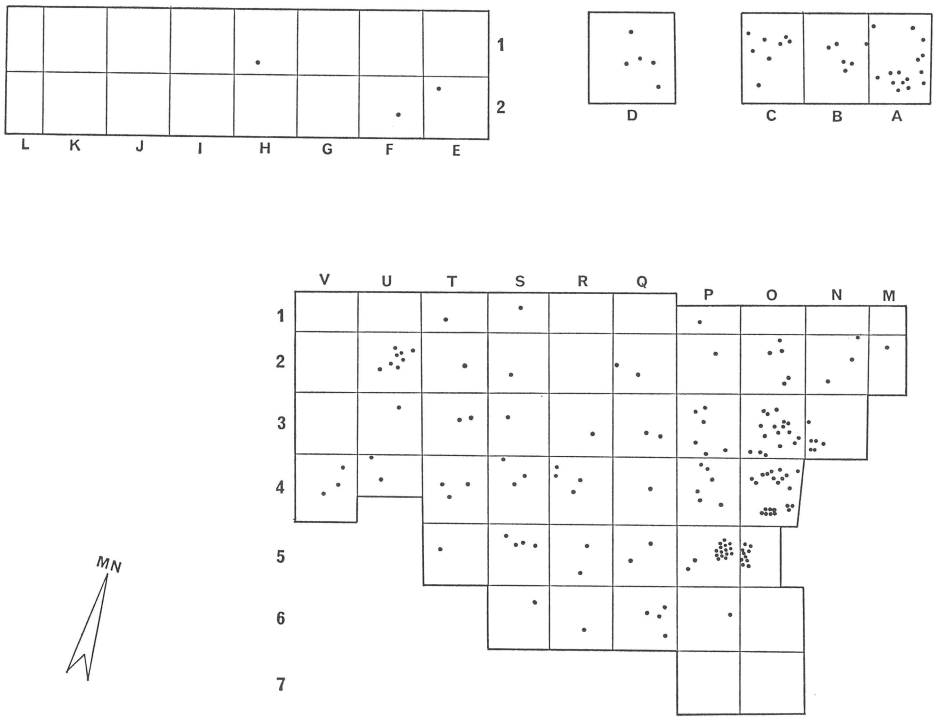


Fig. 45　Ⅰ-3類（格子目）土器分布図

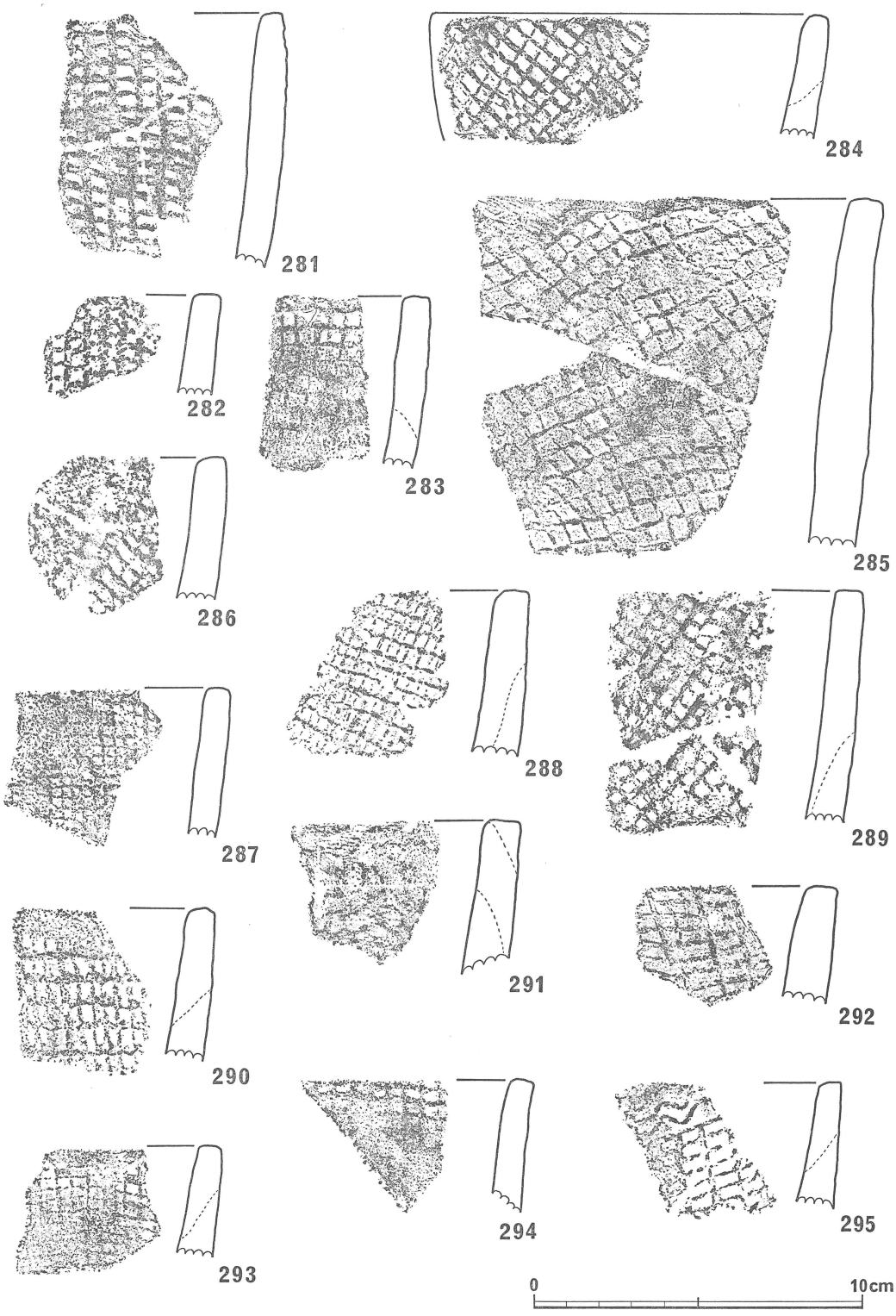


Fig. 46　Ⅰ-3類土器実測図①（½）

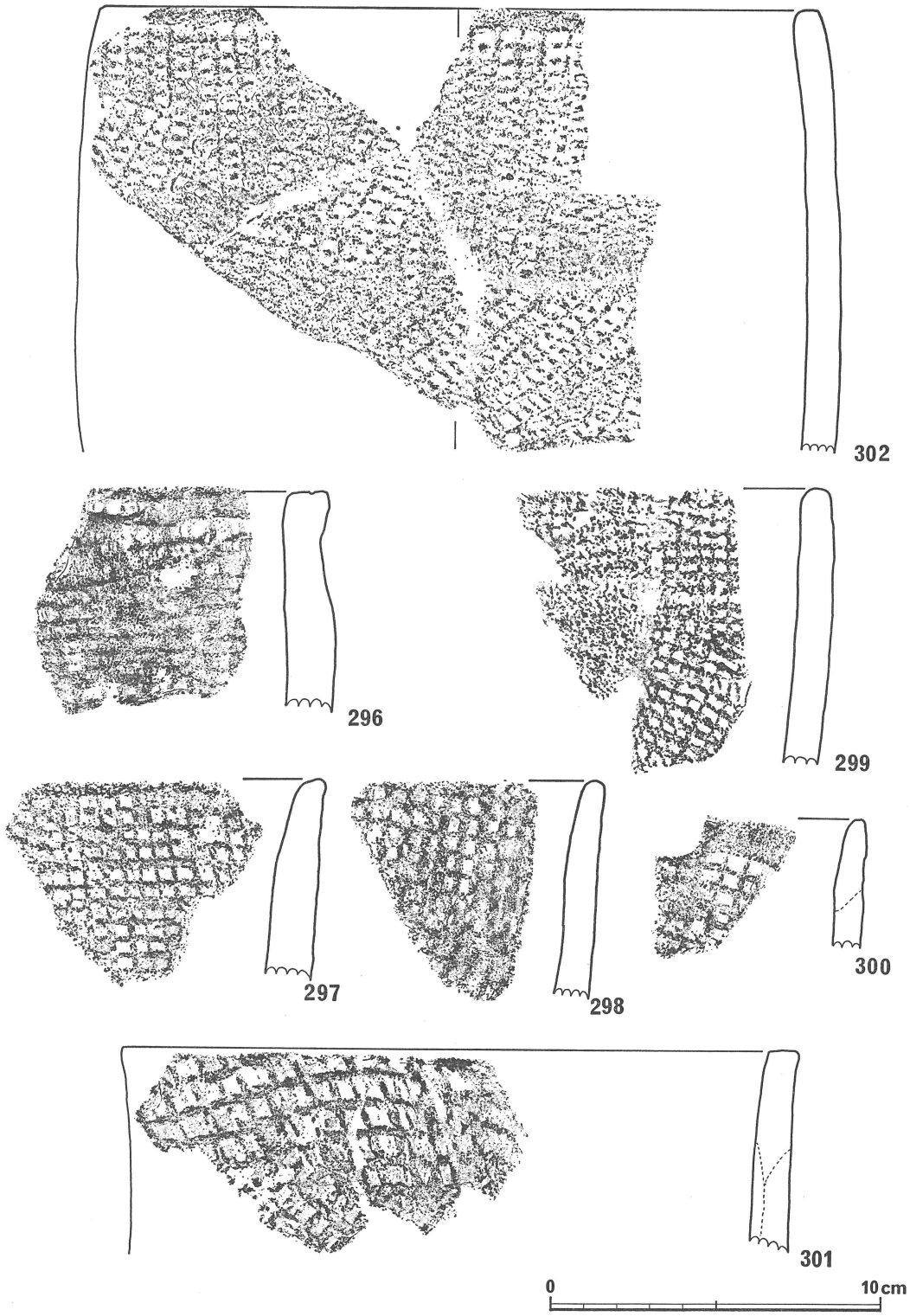


Fig. 47　Ⅰ-3類土器実測図②（$\frac{1}{2}$）

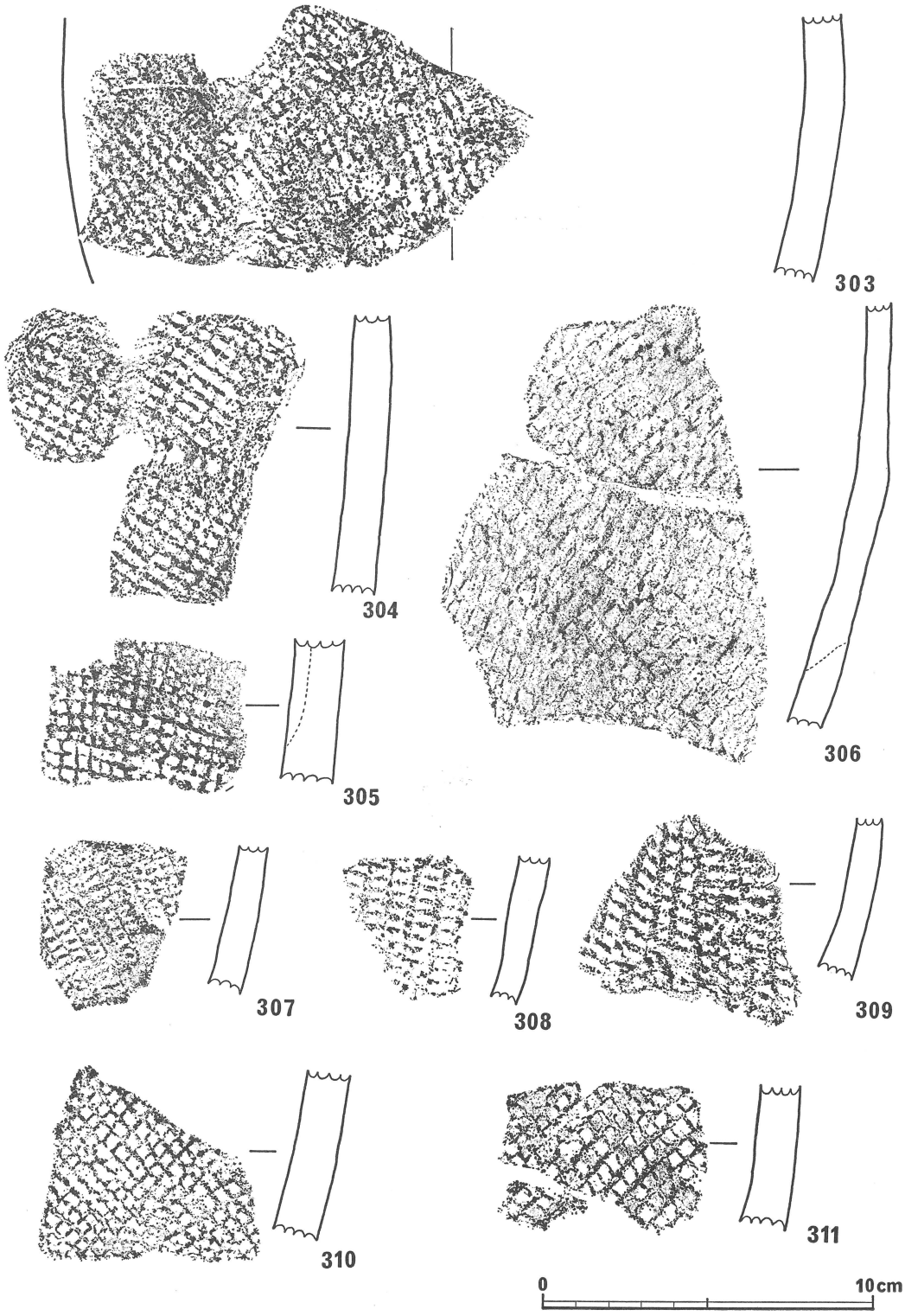


Fig. 48　Ⅰ-3類土器実測図③（½）

303～316は格子目文の胴部及び底辺部資料である。施文方向は，横位のもの（308～309，315～316），右下りのもの（303～304，310～314），及び右上りのもの（306～307）とがある。

303と304は同一個体と思われる。茶褐色を呈し，胎土には砂粒・石英粒・雲母，そして多量の風化礫を含む。施文は右下りである。306は底辺部にあたる。黄褐色で大ぶりな施文を満遍なく施す。器面には指頭による押圧調整で凹凸が目立つ。

307は小破片であるが，粘土の重なり部分に施文の段差が観察され，施文が輪積み毎に漸次行なわれていた事を示している。なお，施文原体値を計測できるのは２例で，311が長さ2.6cm，直径0.6cm，315が長さ3.7cm，直径0.86cmである。

316は，施文に格子目と条痕を用いる。本遺跡の中で異種文様を併用する例は，295と本例の２点のみである。

317は平底底部。格子目底部は全部で９点出土しているが，図示し得る程の大きさの破片は

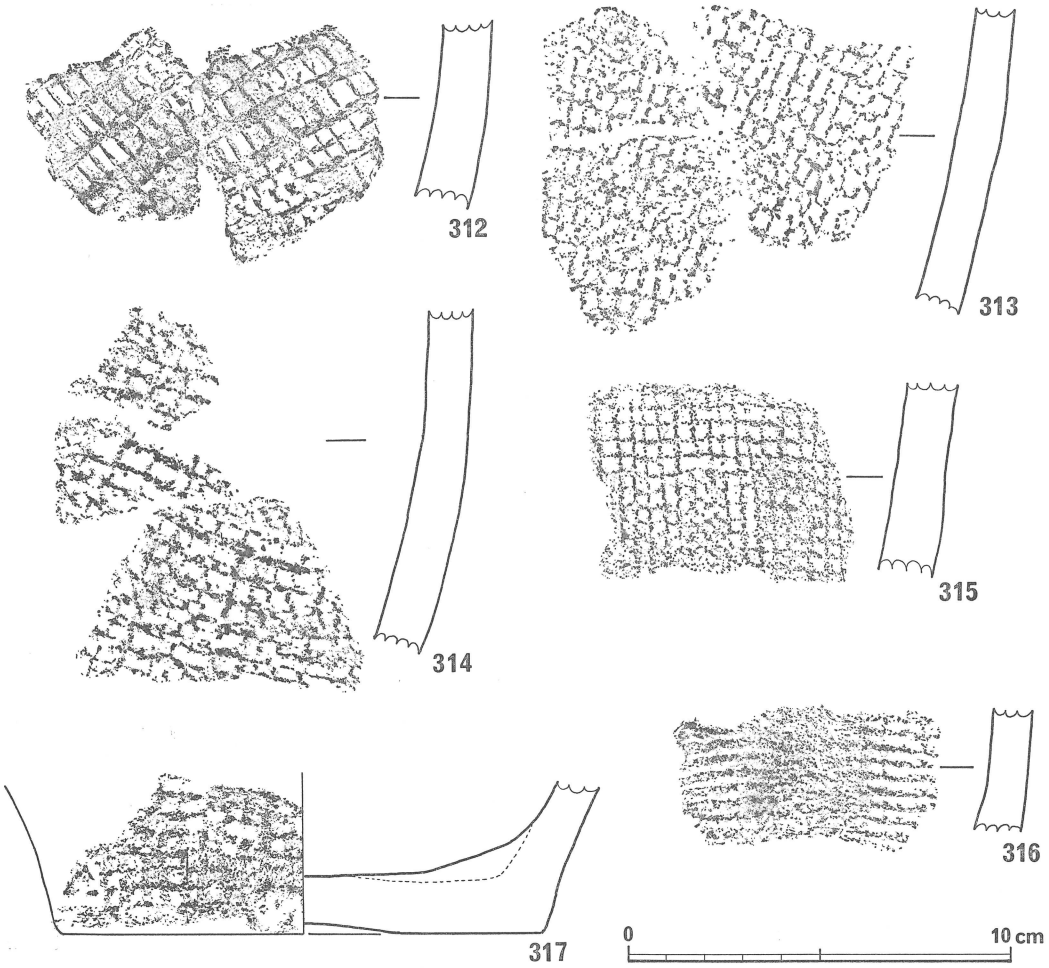


Fig. 49　Ⅰ-３類土器実測図④（$\frac{1}{2}$）

これのみである。底経12.8cmで若干あげ底気味である。黄褐色を呈し，焼成は良好。胎土には砂粒・石英粒・長石・雲母を含み，黒曜石のチップが混入している。施文原体値は長さ2.3cm，直径0.86cmを計る。内壁には若干のコゲが附着する。

Ⅱ類　無文土器（Fig. 50～51，PL. 54）

無文土器は全部で326点出土し，これは不明分を除く土器中8.7%に相当する。比較的全ての区から出土するが破片が概して小さい為に図示し得る資料が少なく，ここでは**318～325**の８点にしぼった。何れも胎土に砂粒・石英粒を含み，これは他の押型文土器と同様である。なお，この内**323～325**はⅢ層中の出土である。

Ⅲ類　撚糸，縄文土器（Fig. 51，PL. 54）

全部で16点出土しているが，不明分を除く全土器中0.4%を占めるにすぎない。**326～331**は撚糸を施し，**332～334**は縄文を施す。**326**は撚糸の口縁部[註1]である。口径9.8cmに復元し得る。茶褐色で胎土には砂粒・雲母を含む。内壁にはススが附着する。**328**は撚糸口縁の小破片である。口唇下にヘラによる横方向への強い調整痕があり段を成す。以下は撚糸を縦走させる。**331**は撚糸文底辺部である。内壁には指頭による押圧痕が認められる。以上の土器は何れも０段の撚糸原体を縦にころがして施文している。**332**，**333**は縄文の胴部であるが，前者はＬＲの原体を横位に，又後者は斜めに施文する。**334**は口縁部である。施文はＲＬで上下に施文する。内壁には指頭押圧調整痕がみられる。

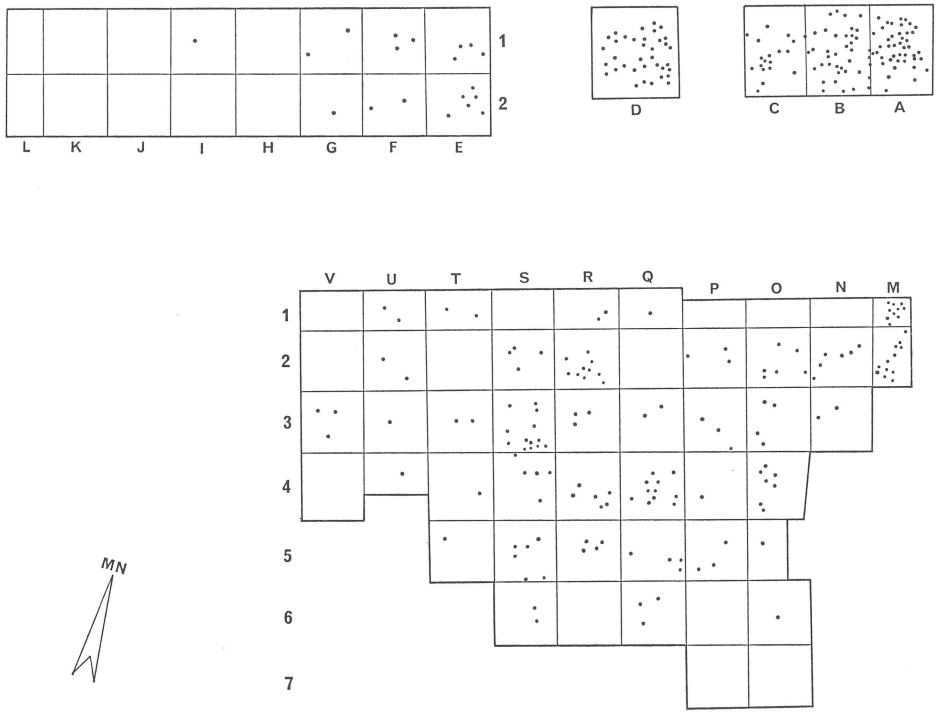
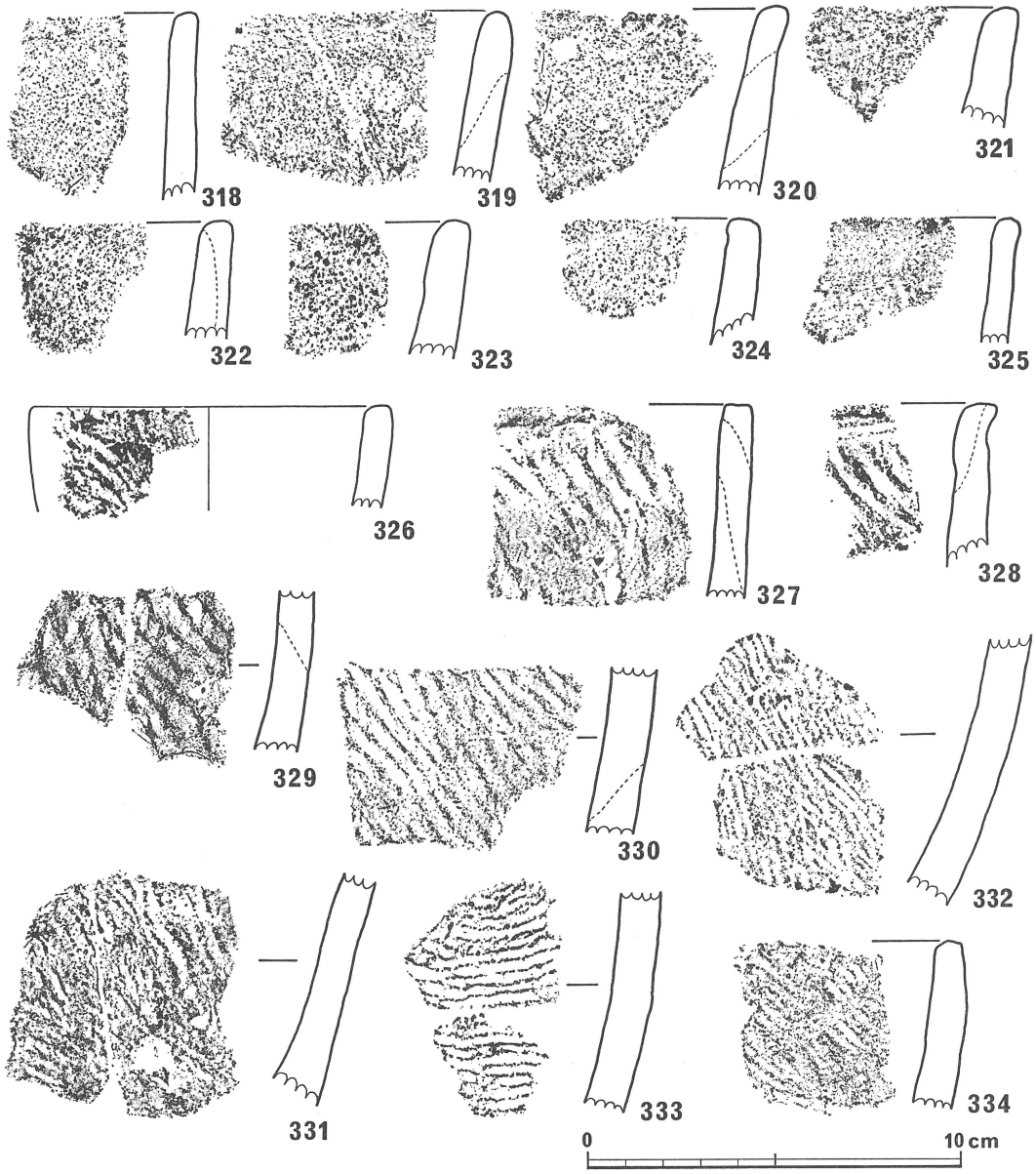


Fig. 50　Ⅱ類無文土器分布図



図Fig. 51　Ⅱ・Ⅲ類土器実測図（½）

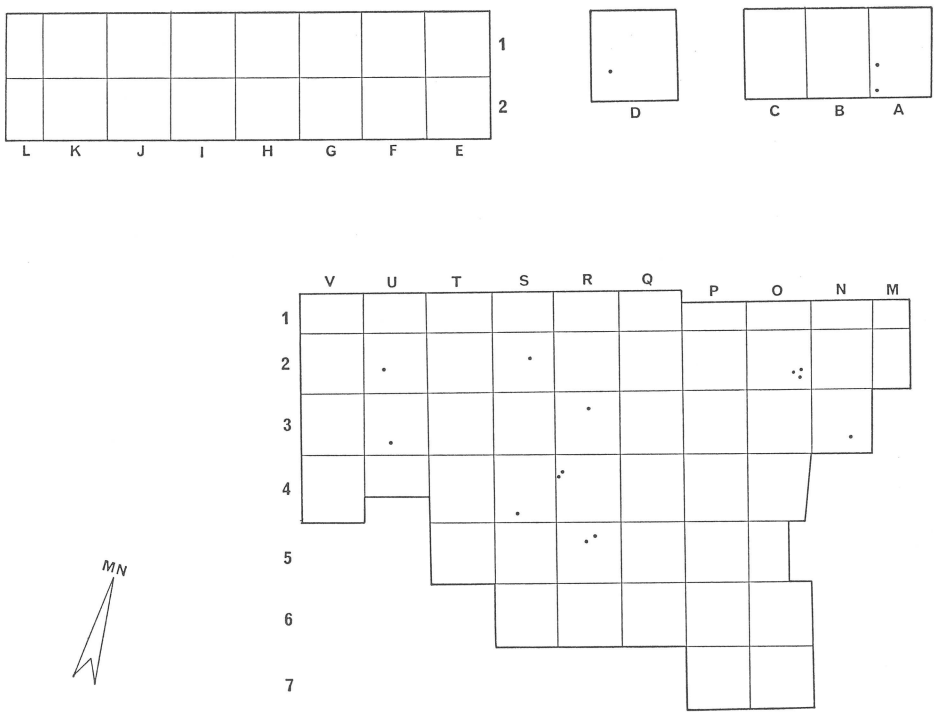


Fig. 52　Ⅲ類撚糸・縄文土器分布図

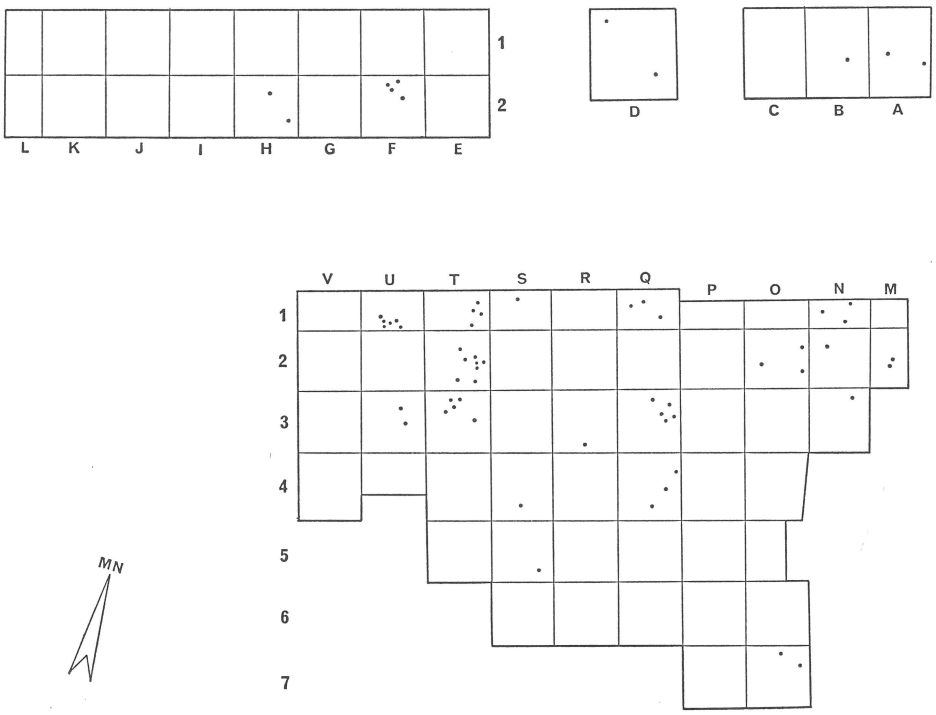


Fig. 53　Ⅳ類条痕文土器分布図

Ⅳ類　条痕文土器（Fig. 53・55, PL. 54）

335～341は条痕文土器であるが，晩期に属するものは明確に異なる。T－2，3区，U－1・3区を中心に62点出土しており，出土土器の1.7％を占めるが，同一個体と思われるものが多く，ここでは7点のみ図示する。**335**は口縁部。暗褐色で，胎土には砂粒・石英粒，そして多量の風化細礫を含む。

4本を一単位とした櫛歯状の原体で条痕をつける。内壁には指頭押圧痕が顕著で，外壁にはススが附着する。**336**は口縁から一旦胴部が張り出す器形である。外壁が一部剝落するが，施文は5本を一単位とした条痕を横位に施す器壁は1㎝で内壁はよく研磨される。

Ⅴ類　沈線文土器（Fig. 54～55, PL. 55）

僅か16点しかなく，0.4％の出土比率である。U－2区とR－5区に集中する。

出土土器片の内**344**が最も大きい破片である。黄褐色を呈し胎土には砂粒・石英粒・長石を含む。器表面には太い沈線文を施す。焼成は良好で外壁にはススが附着する。

以上**342～346**のⅤ類土器の内**343**はⅢ層中の出土である。

348と**349**はⅠ類の押型文土器の範疇に入るものであるが，挿図作成時の都合で順不同となった。

348は楕円を連続させた所謂連珠文である。2点出土している。暗黄褐色で，焼成は良好，胎土には砂粒・雲母を含む。**349**は直線的な幅広の原体を回転押捺させたもので右下りに施文する。暗褐色で焼成は良好である。

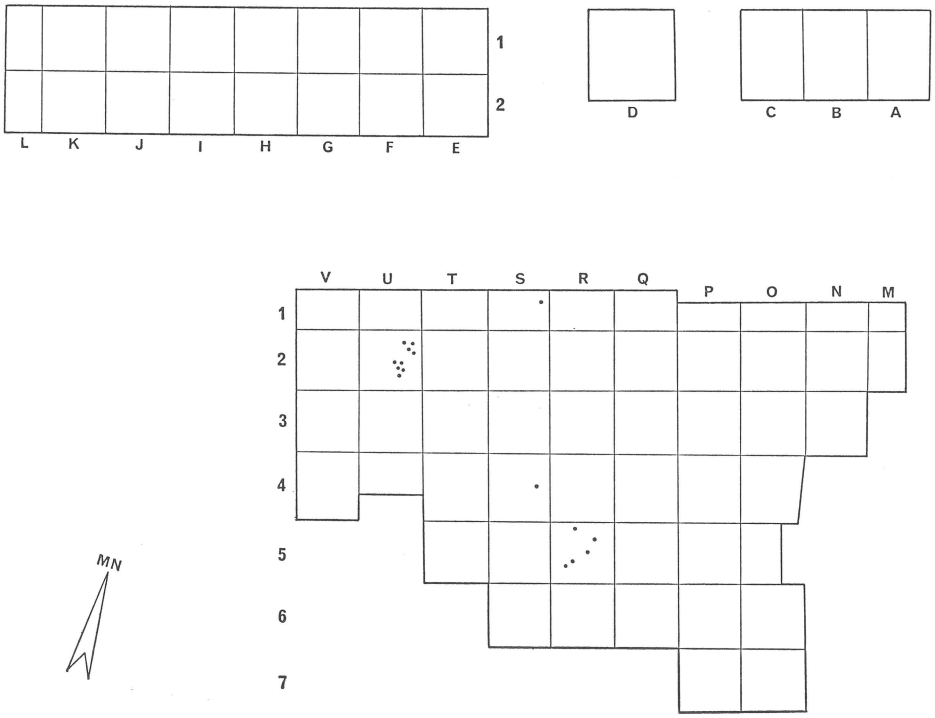


Fig. 54　Ⅴ類沈線文土器分布図

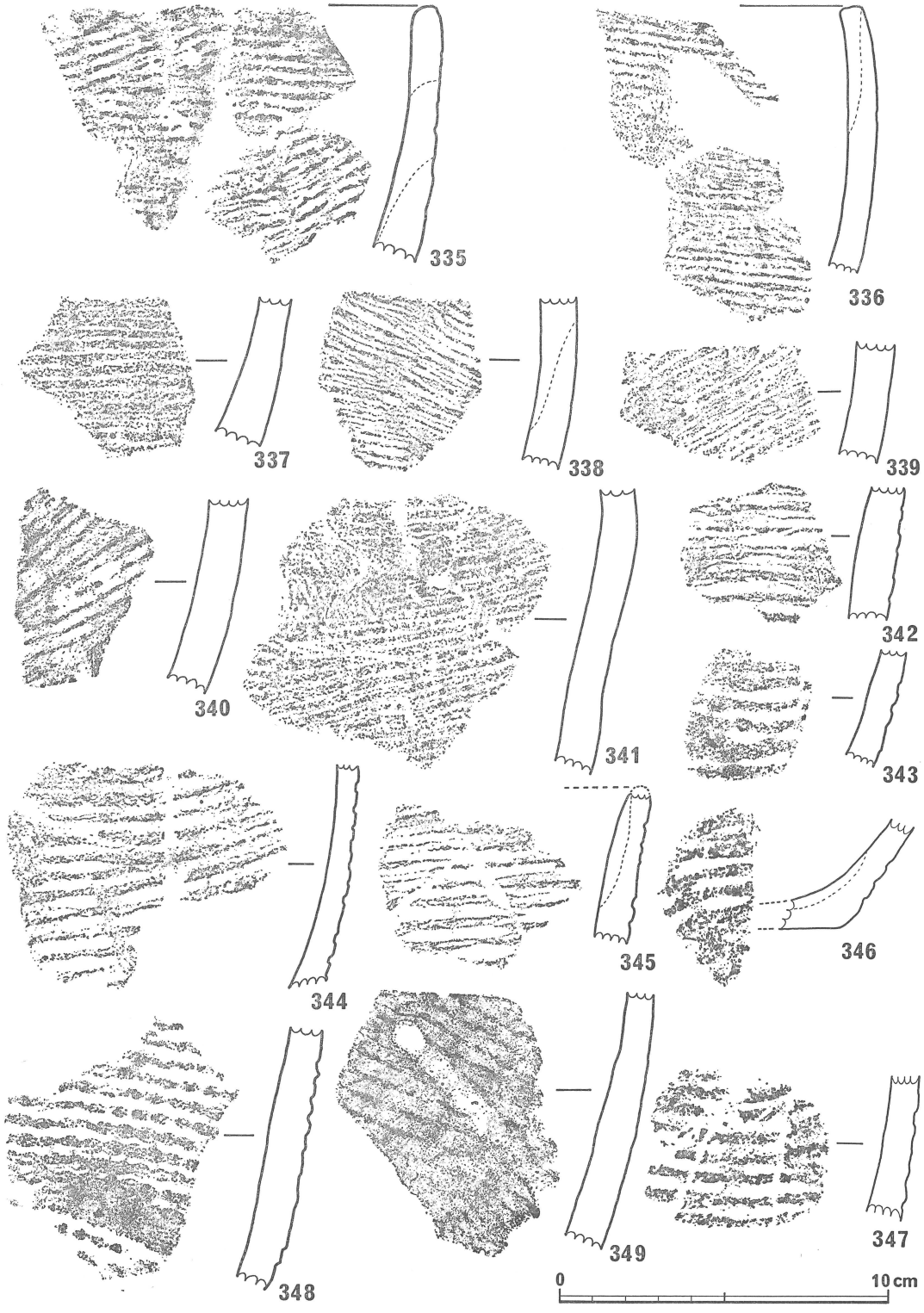


Fig. 55　Ⅳ・Ⅴ類土器実測図（$\frac{1}{2}$）

Ⅵ類　晩期の土器（Fig. 56～58，PL. 55～57）

晩期の土器は129点出土している。（**350～367**）。何れもⅡ層上面から出土し，Q－3・4区，R－3・4区，及びT－2・3区，U－1・2区あたりに濃密に分布する。

350～351は浅鉢である。**350**は½個体程出土した。口径は21cm，底部は欠損するが推定高12cm前後と思われる。暗黄褐色を呈し，胎土には雲母を含む。器壁は0.4cm前後で焼成は良好である。口縁は外反し肩部で「く」の字形に屈曲する。全面にヘラによる研磨痕が顕著である。口縁にはリボン状突起がみられ，口縁下には両壁より穿孔した補修孔を持つ。**352**は頸部が短い壺の口縁である。茶褐色を呈し，焼成は良，内外壁共よく研磨する。

353～355は粗製の深鉢口縁。**353**は口縁より大きく内湾する。外壁には浅い条痕を施し，外壁にはススが附着する。**355**は暗茶褐色，器壁は0.7cm，器面の調整は指頭押圧による為凹凸が目立つ。外壁には多量のススが附着する。

357は精製深鉢口縁である。黄灰色を呈し，よく精選された胎土を用いる。内外壁共全面にヘラによる研磨を施す。**356～364**は深鉢胴部である。**358**を除き，例れも器壁には条痕調整を行う。**359**は胴屈曲部である。淡褐色で胎土には砂粒・石英粒を含む。器壁は0.7cmと薄く焼成は良好。全面に条痕を施すが，屈曲部上位はヘラによって研磨し，その上に断面三角の離れた「x」字状の隆帯を配する。なお，屈曲部以下には多量のススが附着する。**361**と**362**には同じ

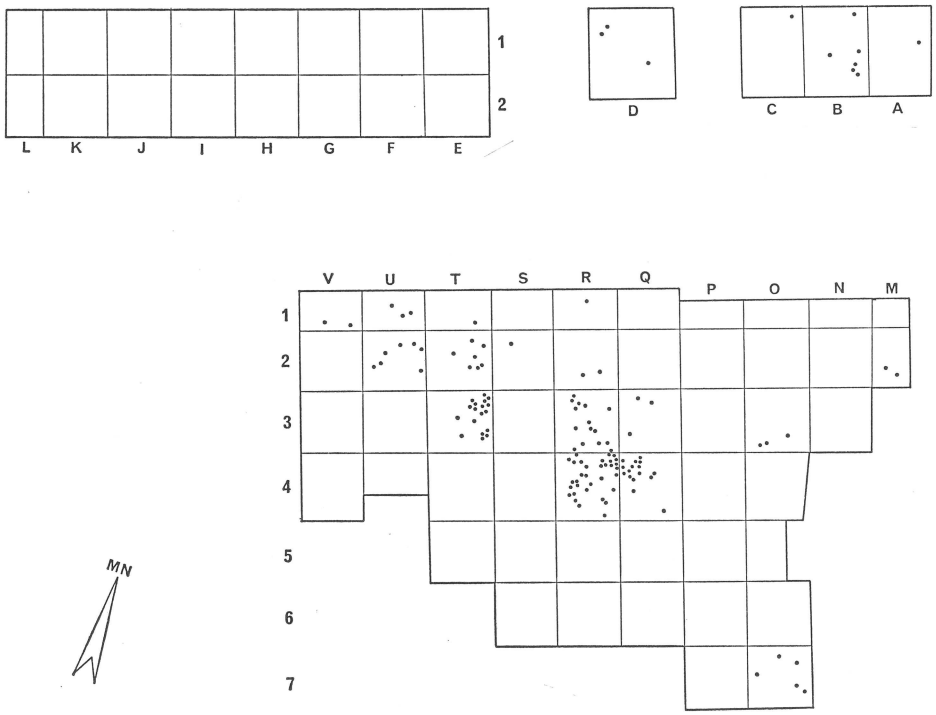


Fig. 56　Ⅵ類晩期土器分布図

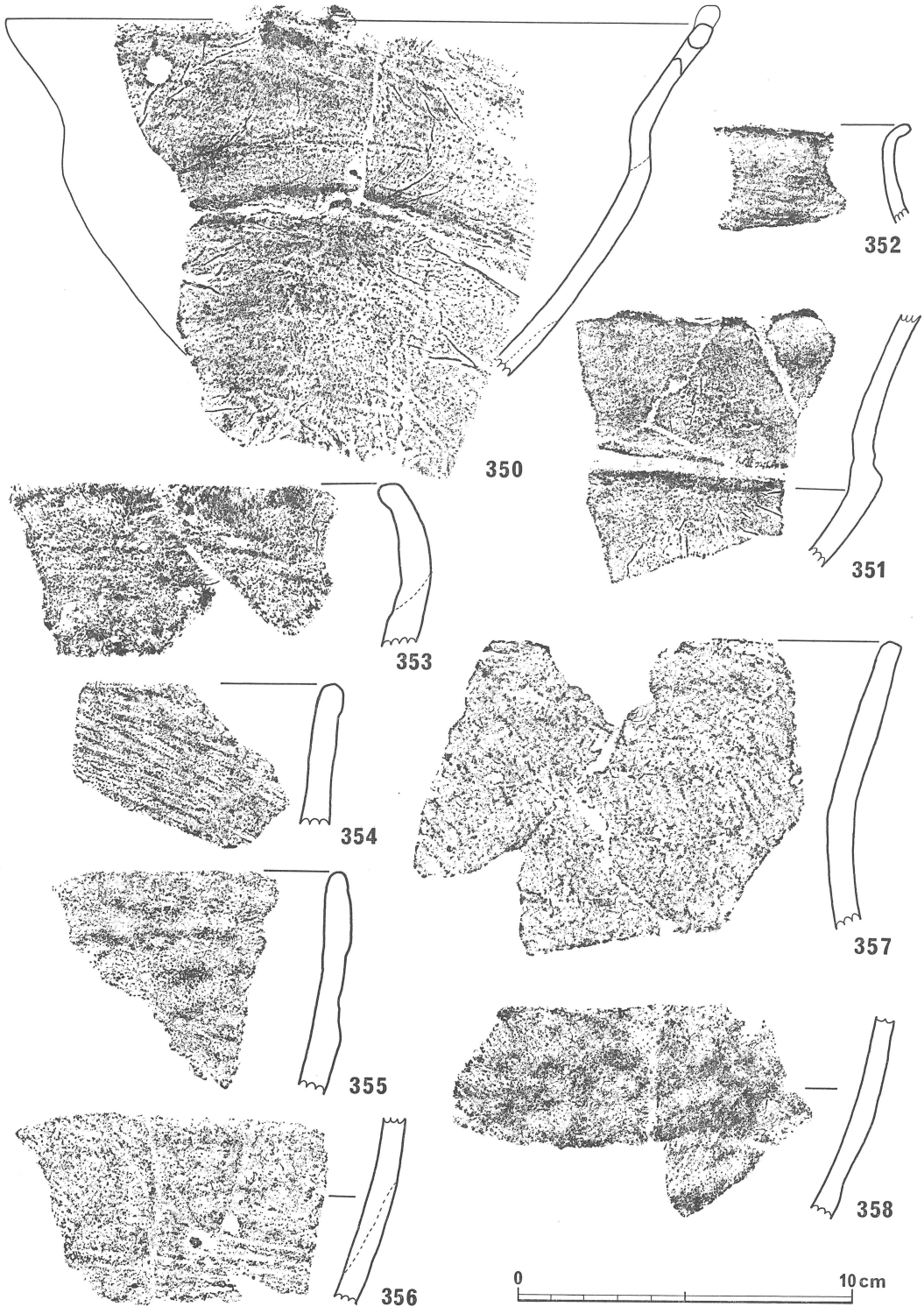


Fig. 57　Ⅵ類土器実測図①（$\frac{1}{2}$）

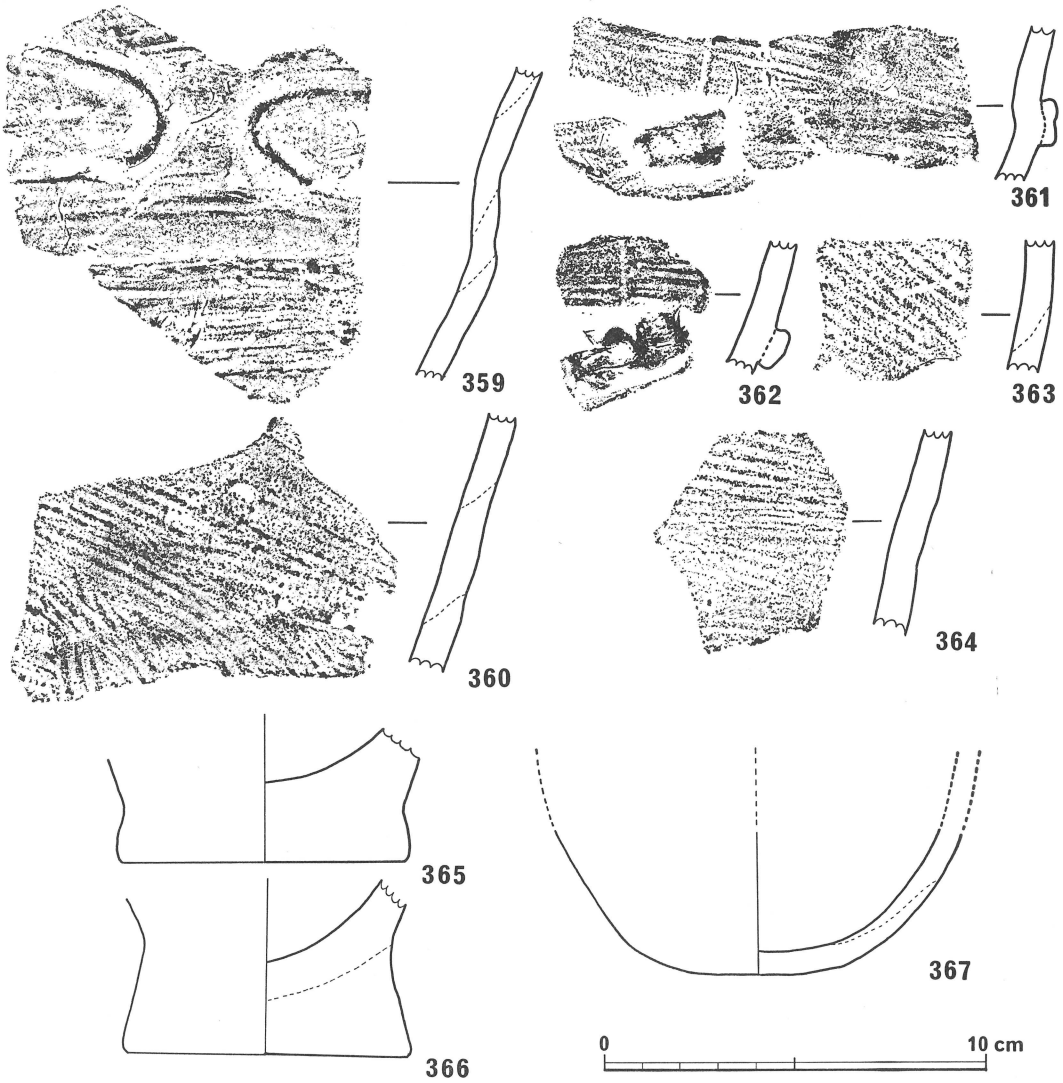


Fig. 58　Ⅵ類土器実測図②（½）

ような特徴をもつ施文がある。何れも地文に条痕を施し，屈曲部上に小さな突帯を貼付する。361は，左右が若干欠損するが，短いリボン状の帯に指頭による太い刻目を施し，362は指頭で交互に押圧して変化をつける。なお，共に突起の上部には一条の浅い沈線を施す。

365と366は深鉢底部である。共に7.8cm前後の底径をもつ。367は壷底部である。丸底に近い平底で暗黄褐色を呈し，胎土はよく精選している。内外壁共に丁寧な研磨を施す。

註1　撚糸文の施文については渡辺康行氏の教示を得た。

Tab. 4 土 器 観 察 表 ①

番号	出土区番号	層位	器形	部位	色調	胎土	焼成	口唇形	器壁	文様	原体 直径	原体 長	施文方向	備考
1	R 3 −30,38	II	深鉢A	口縁	暗褐色	砂粒.石英.雲母	良	∩	1.0	山	0.89	2.4	→,↘	口径22.1cm,復元高25.5cm
2	N 2 −31	II	深鉢A	口縁	黄灰色	砂粒.石英.雲母	良	⊓	0.9	山			→,↘	内壁研磨
3	T 2 −39	II	深鉢A	口縁	茶褐色	砂粒(多).石英.雲母	良	∩	1.1	山	0.7		→	
4	N 3 − 1	II	深鉢A	口縁	茶褐色	砂粒.雲母	良	∩	0.9	山	0.76		→	内壁研磨
5	O 3 −55	II	深鉢A	口縁	淡赤褐色	砂粒.雲母.長石	良	⊓	1.2	山			→	内壁指頭押圧調整
6	O 2 −101	II	深鉢A	口縁	黒褐色	砂粒.雲母.長石	良	∩	1.3	山			→	内壁研磨
7	P 6 −27	II	深鉢A	口縁	暗褐色	砂粒.雲母	良	∩	0.9	山	0.73		→	外壁全面にスス
8	G 2 −14	II	深鉢A	口縁	暗褐色	砂粒.石英.雲母	良	∩	0.9	山			→	内壁研磨
9	O 2 −159	II	深鉢A	口縁	黄褐色	砂粒.雲母.長石	良	∩	0.9	山			→	口径14.6cm,外壁全面にスス
10	P 4 −23	II	深鉢A	口縁	暗褐色	砂粒.石英.雲母	良	∩	0.9	山			→	内壁指頭押圧調整
11	O 2 −46,47	II	深鉢A	口縁	茶褐色	砂粒.石英.雲母	良	∩	0.9	山			→,↘	口径10.8cm
12	S 6 − 1	II	深鉢A	口縁	暗褐色	砂粒.石英.雲母	良	⊓	1.0	山	0.76	1.9	→	内壁研磨
13	H 1 − 5	II	深鉢A	口縁	淡黄色	砂粒.雲母	良	∩	1.2	山	0.6		→	
14	R 1 −55	II	深鉢A	口縁	暗褐色	砂粒.石英粒	良	∩	1.1	山			→	内壁一部スス
15	S 2 −41	II	深鉢A	口縁	淡黄色	砂粒(多).石英.雲母	良	⊓	1.1	山	0.73		→	外壁にスス
16	R 3 −46	II	深鉢A	口縁	茶褐色	砂粒.石英.雲母	良	∩	1.1	山			→	
17	O 2 −176	II	深鉢A	口縁	赤褐色	砂粒.石英.雲母	良	⊓	0.9	山	0.7		→	外壁にスス
18	T 5 − 9	II	深鉢A	口縁	暗褐色	砂粒.石英.雲母	良	⊓	1.1	山	0.76		→	
19	D −115	II	深鉢A	口縁	黄灰色	砂粒(多)	良	∩	1.1	山			↗	内壁研磨
20	R 1 −43	II	深鉢A	口縁	茶褐色	砂粒.雲母	良	⊓	1.2	山	0.68		↘	内壁研磨
21	S 5 −53	II	深鉢A	口縁	黄褐色	砂粒.石英.雲母	良	⊓	1.1	山	0.6		→	内壁研磨
22	D −135	II	深鉢A	口縁	黄褐色	砂粒.石英.雲母	良	⊓	0.9	山			→	
23	D −240	II	深鉢A	口縁	暗褐色	砂粒.石英.雲母	良	∩	1.0	山			↘	外壁にスス
24	S 3 −32	II	深鉢A	口縁	暗褐色	砂粒.雲母.長石	良	⊓	1.1	山			→	
25	O 2 −98	II	深鉢A	口縁	暗赤褐色	砂粒	良	∩	1.2	山			→	内壁研磨
26	R 4 −134	II	深鉢A	口縁	淡黄色	砂粒.石英.雲母	良	∩	1.2	山	0.63		→	
27	O 4 −14	II	深鉢A	口縁	茶褐色	砂粒.雲母	良	∩	1.0	山	0.63		→	内壁研磨
28	A −364	II	深鉢A	口縁	黄褐色	砂粒.石英.雲母	良	∩	1.1	山			→	
29	S 3 −59	II	深鉢A	口縁	暗褐色	砂粒.雲母	良	∩	1.1	山	0.76		→,↘	内壁研磨
30	R 4 −81	II	深鉢A	口縁	黄灰色	砂粒.雲母	良	⊓	1.1	山			→	内壁研磨,外壁に無文帯
31	A −201	II	深鉢A	口縁	暗褐色	砂粒(多).風化細礫	良	⊓	1.3	山			→	
32	F 1 −59	II	深鉢A	口縁	暗褐色	砂粒.石英.雲母	良	⊓	1.2	山			→,↘	外壁にスス
33	T 3 −65	II	深鉢A	口縁	茶褐色	砂粒.雲母	良	∩	1.1	山			→	内壁研磨,外壁にスス
34	I 2 − 4	II	深鉢A	口縁	黄褐色	砂粒.雲母	良	∩	1.3	山			→	内壁研磨
35	N 2 −84	II	深鉢A	口縁	茶褐色	砂粒.雲母	良	∩	1.1	山			↘	内壁研磨
36	O 3 −47	II	深鉢A	口縁	黄褐色	砂粒(多).雲母.長石	良	∩	1.0	山	0.636		→	
37	Q 2 − 6	II	深鉢A	口縁	黄褐色	砂粒.雲母	良	∩	1.2	山			→	
38	E 2 −16	II	深鉢A	口縁	茶褐色	砂粒.石英.雲母	良	∩	0.9	山			→	
39	E 2 −65	II	深鉢A	口縁	淡黄色	砂粒.石英.雲母	良	∩	1.2	山			→	施文を一部ナデ消す
40	S 4 −14	II	深鉢A	口縁	暗褐色	砂粒.石英.雲母	良	⊓	1.1	山			→,↘	内壁研磨
41	F 2 −35	II	深鉢A	口縁	暗茶褐色	砂粒.石英.雲母	良	∩	1.2	山			→	内壁研磨,外壁全面スス
42	D −37	II	深鉢A	口縁	暗灰色	砂粒.石英.雲母	良	∩	0.9	山			→	内壁研磨
43	E 1 −116	II	深鉢A	口縁	黒褐色	砂粒.石英.雲母	良	∩	0.8	山			→	施文は間のび
44	O 4 −10	II	深鉢A	口縁	暗褐色	砂粒.雲母	良	∩	1.1	山	0.7		→	
45	G 2 −54	II	深鉢A	口縁	赤褐色	砂粒.石英粒(多)	良	∩	1.2	山			↘	
46	O 3 −41	II	深鉢A	口縁	黄灰色	砂粒.石英.雲母	良	⊓	1.0	山	0.98	2.7	→,↘	
47	F 2 −50	II	深鉢A	口縁	暗褐色	砂粒.石英.雲母	良	∩	1.1	山	0.63		→,↗	内壁研磨
48	Q 2 − 8	II	深鉢A	口縁	暗褐色	砂粒.雲母	良	⊓	1.0	山			↗	内壁研磨
49	R 5 −46	II	深鉢A	口縁	茶褐色	砂粒.石英.雲母	良	⊓	1.5	山			→	
50	Q 6 −80	II	深鉢A	口縁	淡黄色	砂粒.石英.雲母	良	∩	1.2	山			→	内壁研磨
51	O 2 −133	II	深鉢A	口縁	黄褐色	砂粒.石英.雲母	良	∩	1.3	山			→	

Tab. 5 土 器 観 察 表 ②

番号	出土区番号	層位	器形	部位	色調	胎土	焼成	口唇形	器壁	文様	原体 直径	原体 長	施文方向	備考
52	R 3 −31	II	深鉢A	口縁	茶褐色	砂粒,雲母	良	∩	1.2	山			→	外壁にスス
53	Q 6 −90	II	深鉢A	口縁	暗茶褐色	砂粒.石英.雲母	良	∩	1.0	山			↘	外壁にスス
54	N 3 −35	II	深鉢A	口縁	暗茶褐色	砂粒.雲母	良	⊓	1.1	山			→	外壁全面スス
55			深鉢A	口縁	暗褐色	砂粒.石英.雲母	良	∩	1.1	山			→	内壁指頭圧調整
56	E 1 −32	II	深鉢A	口縁	黄褐色	砂粒.石英.雲母	良	∩	1.2	山			→	
57	E 2 −51	II	深鉢A	口縁	黒灰色	砂粒.石英(多)	良	∩	1.1	山			→	
58	P 6 − 3	II	深鉢A	口縁	暗褐色	砂粒.雲母.長石	良	∩	1.0	山			↘	施文をナデ消す
59	Q 3 −22	II	深鉢A	口縁	黄褐色	砂粒.石英.雲母	良	⊓	1.3	山			→,↘	内壁研磨
60	R 4 −95	II	深鉢A	口縁	暗黄灰色	砂粒(多).雲母	良	∩	1.0	山			↘	内壁研磨,外壁スス
61	R 3 −21	II	深鉢A	口縁	暗褐色	砂粒.雲母	良	⊓	1.1	山	0.60		↘	内壁研磨,外壁スス
62	E 2 −25	II	深鉢A	口縁	黄灰色	砂粒.石英.雲母	良	⊓	1.3	山			→	
63	N 3 −16	II	深鉢A	口縁	暗褐色	砂粒.雲母	良	⊓	1.1	山			↗	内壁研磨
64	G 1 − 2	II	深鉢A	口縁	黄灰色	砂粒.石英.雲母	良	∩	0.7	山			→	口唇内壁にスス
65	G 2 −13	II	深鉢A	口縁	茶褐色	砂粒.石英.雲母	良	⊓	0.9	山			→	外壁にスス
66	Q 2 − 4	II	深鉢A	口縁	茶褐色	砂粒.石英.雲母	良	∩	1.3	山			↘	内壁指頭押圧調整
67	R 4 −75	II	深鉢A	口縁	淡黄色	砂粒.雲母	良	∩	1.3	山			↘	
68	V 4 −11	II	深鉢A	口縁	暗黄褐色	砂粒.石英.雲母	良	∩	1.2	山			↘	
69	A −54	II	深鉢A	口縁	茶褐色	砂粒.石英.雲母	良	⊓	1.1	山			↘	内壁研磨
70	Q 4 −65	II	深鉢A	口縁	淡黄色	砂粒.長石.黒曜石	良	∩	1.0	山			→	口唇外壁に無文帯
71	S 5 −32,37	II	深鉢A	口縁	黄褐色	砂粒.石英.雲母	良	⊓	0.8	山			→	口唇外壁に無文帯
72	A −233	II	深鉢A	口縁	暗褐色	砂粒.長石	良	∩	1.0	山			↘	内壁研磨
73	I 2 − 1	II	深鉢A	口縁	灰褐色	砂粒.長石.雲母	良	∩	1.3	山	0.63		→	口唇外壁に無文帯
74	N 2 −106	II	深鉢A	口縁	褐色	砂粒.雲母	良	∩	1.0	山			→	口唇外壁に無文帯
75	O 4 −52	II	深鉢B	口縁	暗褐色	砂粒.雲母	良	∩	1.1	山	0.7		→,↘	口径24.6cm,復元高28.9cm
76	O 7 −37	II	深鉢B	口縁	茶褐色	砂粒(多).雲母.長石	良	∩	0.9	山			→	口径11.3cm
77	F 1 −33,77	II	深鉢B	口縁	暗褐色	砂粒.雲母.長石	良	∩	1.1	山	0.57		→	小さく細い施文
78	S 4 − 9	II	深鉢B	口縁	黄褐色	砂粒.石英.雲母	良	∩	1.3	山			↘	口唇外壁に無文帯
79	Q 5 −5,12,19,22	II	深鉢B	口縁	暗褐色	砂粒(多).石英.雲母	良	⊓	1.0	山	0.73	2.5	→	外壁全面スス
80	Q 5 −23	II	深鉢B	胴部	暗褐色	砂粒(多).石英.雲母	良	⊓	1.0	山	0.73	2.5	↘	79と同一個体
81	Q 4 −221	II	深鉢B	口縁	黄褐色	砂粒.雲母	良	⊓	1.0	山			↘	内壁研磨
82	A −374	II	深鉢B	口縁	明茶褐色	砂粒.石英.雲母	良	⊓	1.4	山			↘	
83	R 5 −106	II	深鉢B	口縁	黄褐色	砂粒.雲母	良	∩	0.8	山			→	
84	R 3 −63	II	深鉢B	口縁	茶褐色	砂粒.雲母	良	∩	1.5	山	1.2		→	
85	Q 6 −53	II	深鉢B	口縁	黄褐色	砂粒.石英.風化細礫	良	∩	1.1	山			→,↘	
86	A −82	II	深鉢C	口縁	茶褐色	砂粒.石英.雲母	良	∩	1.1	山			↘	
87	H 2 − 7	II	深鉢C	口縁	黄褐色	砂粒.石英.雲母	良	⊓	1.3	山	0.92		→	
88	Q 4 −177	II	深鉢C	口縁	淡黄色	砂粒.雲母	良	∩	1.1	山	0.66	1.8	→	内壁研磨
89	G 2 −46	II	深鉢C	口縁	暗褐色	砂粒.雲母	良	∩	0.8	山			→	内壁研磨
90	I 1 − 4	II	深鉢C	口縁	茶褐色	砂粒.雲母	良	⊓	1.1	山			→	
91	N 2 −22	II	深鉢C	口縁	黄褐色	砂粒.雲母.長石	良	∩	1.4	山			→	
92	B −70,A −458	II	深鉢C	口縁	黄褐色	砂粒.雲母	良	∩	1.1	山			→	
93	S 6 − 3	II	深鉢C	口縁	暗褐色	砂粒.雲母	良	∩	1.3	山	0.79	2.7	→,↘	
94	T 1 −30	II	深鉢C	口縁	暗褐色	砂粒.雲母	良	⊓	0.9	山			→	外壁にスス
95	M 2 −61	II	深鉢C	口縁	暗茶褐色	砂粒.雲母	良	∩	0.9	山	0.57		→,↘	内壁研磨
96	C −213	II	深鉢C	口縁	暗茶褐色	砂粒(多).雲母.長石	良	⊓	1.5	山			→	
97	F 1 −43	II	深鉢C	口縁	茶褐色	砂粒(多).雲母.長石	良	∩	1.3	山			→	口唇外壁に無文帯
98	Q 2 −21	II	深鉢C	口縁	茶褐色	砂粒.雲母	良	∩	1.1	山			→	内壁研磨
99	R 5 −14	II	深鉢C	口縁	黄褐色	砂粒(多).石英.雲母	良	⊓	1.1	山			→	外壁にスス
100	A −22	II	深鉢C	口縁	黒褐色	砂粒.石英.雲母	良	⊓	1.1	山			→	内壁研磨
101	A −76	II	深鉢C	口縁	暗褐色	砂粒.石英.雲母	良	⊓	1.0	山			↘	内壁研磨
102	Q 3 −39	II	深鉢C	口縁	黄褐色	砂粒.石英.雲母	良	∩	1.2	山			→	内壁研磨

Tab. 6 土 器 観 察 表 ③

番号	出土区番号	層位	器形	部位	色調	胎土	焼成	口唇形	器壁	文様	原体 直径	原体 長	施文方向	備考
103	A－438	II	深鉢C	口縁	茶褐色	砂粒.石英.雲母	良	⊓	1.2	山			↗	小さく浅い山形文
104	A－435	II	深鉢C	口縁	茶褐色	砂粒.石英.長石	良	∩	1.3	山			↘	口唇外壁に無文帯
105	N 2－31	II	深鉢C	口縁	黄灰色	砂粒.石英粒	良	∩	1.4	山			↘	口唇外壁に無文帯
106	O 4－30	II	深鉢D	口縁	茶褐色	砂粒.雲母	良	⊓	1.4	山			↘	外壁一部にスス
107	N 3－58	II	深鉢D	口縁	黄褐色	砂粒.石英	良	∩	0.8	山			→	内壁研磨
108	G 1－19	II	深鉢D	口縁	暗茶褐色	砂粒.雲母	良	∩	1.0	山			↘	
109	R 5－8	II	深鉢D	口縁	黄褐色	砂粒.石英粒(多)	良	⊓	1.2	山	0.73		↘	内壁指頭押圧調整
110	G 1－3	II	深鉢D	口縁	黄褐色	砂粒.雲母	良	⊓	1.2	山			→,↘	内壁研磨
111	D－5	II	深鉢D	口縁	茶褐色	砂粒.石英.雲母	良	⊓	1.4	山	0.63		↘	
112	G 1－17	II	深鉢D	口縁	茶褐色	砂粒(多).雲母.長石	良	∩	1.1	山			→	外壁にスス
113	T 5－12	II	深鉢D	口縁	黄褐色	砂粒.石英.風化細礫	良	⊓	1.2	山	0.66		→,↘	口唇外壁に無文帯
114	B－72	II	深鉢D	口縁	暗茶褐色	砂粒.石英.雲母	良	∩	1.0	山			→	内壁指頭押圧調整
115	I 1－10	II	深鉢D	口縁	暗褐色	砂粒.雲母	良	∩	1.0	山	0.66		→	
116	N 3－105,O 4－123	II	深鉢D	口縁	茶褐色	砂粒.雲母	良	⊓	1.2	山	0.73		→,↘	
117	Q 5－34	II	深鉢D	口縁	黄褐色	砂粒.雲母.風化細礫	良	∩	1.1	山			→	
118	Q 5－61	II	深鉢D	口縁	黄褐色	砂粒.石英.雲母	良	∩	1.0	山			→	内壁研磨
119	S 2－92,114	II	深鉢D	口縁	茶褐色	砂粒.雲母	良	∩	1.1	山	0.8	2.3	↘	
120	V 4－16	II	深鉢E	口縁	暗黄褐色	砂粒.石英.雲母.長石	良	∩	1.1	山	0.73	3.5	→,↘	口径26cm
121	P 6－23	II	深鉢E	口縁	茶褐色	砂粒.雲母	良	∩	0.8	山	0.66	3	↘	
122	P 3－2	II	深鉢E	口縁	赤褐色	砂粒.石英	良	⊓	1.3	山	0.73		↘	内壁指頭押圧調整
123	D－58	II	深鉢E	口縁	黄褐色	砂粒.石英.雲母	良	∩	1.1	山			→,↘	口径10.8cm
124	D－418	II	深鉢E	口縁	茶褐色	砂粒.石英.雲母	良	∩	1.3	山			↗	内壁研磨
125	R 1－34,63,39	II	深鉢E	口縁	黒褐色	砂粒.雲母	良	∩	1.1	山	0.63	3.1	→,↘	内壁研磨,外壁全面スス
126	P 6－90	III	深鉢A	口縁	暗褐色	砂粒.石英.雲母	良	∩	1.0	山	0.76	2.5	→	口径18.4cm
127	R 2－127	III	深鉢A	口縁	茶褐色	砂粒.雲母	良	⊓	1.1	山	0.7		→,↘	内壁研磨
128	Q 4－212	III	深鉢A	口縁	暗黄褐色	砂粒	良	∩	1.0	山			→,↘	
129	O 4－88	III	深鉢A	口縁	暗褐色	砂粒(多).石英.雲母	良	∩	0.9	山			→	口径10.7cm
130	R 6－17	III	深鉢A	口縁	黄灰色	砂粒.石英.雲母	良	∩	1.1	山			→	
131	G 2－67	III	深鉢A	口縁	暗褐色	砂粒.雲母	良	∩	1.1	山			→,↘	
132	R 3－70,71	III	深鉢A	口縁	暗茶褐色	砂粒.石英.雲母	良	⊓	1.2	山			→	
133	R 2－107	III	深鉢A	口縁	暗茶褐色	砂粒.雲母	良	∩	1.1	山			→	
134	N 2－110	III	深鉢A	口縁	赤褐色	砂粒.雲母	良	⊓	1.1	山			↗	内壁研磨
135	C′－367	III	深鉢A	口縁	黄褐色	砂粒(多)	良	∩	1.2	山			→	内壁部分的に研磨
136	Q 6－143	III	深鉢A	口縁	暗褐色	砂粒.雲母	良	∩	1.2	山			→	口唇外壁に無文帯
137	P 2－36	III	深鉢A	口縁	茶褐色	砂粒.雲母	良	∩	1.1	山			→	胎土に黒曜石チップを含む
138	Q 6－48,141	III	深鉢A	口縁	暗褐色	砂粒(多).雲母.長石	良	∩	1.2	山			→	口唇外壁に無文帯
139	E 1－100	III	深鉢A	口縁	暗褐色	砂粒.雲母.長石	良	⊓	1.1	山			↘	内壁研磨
140	N 2－180	III	深鉢A	口縁	茶褐色	砂粒.石英.雲母	良	∩	1.2	山	0.76		→,↘	内壁研磨
141	O 7－73	III	深鉢A	口縁	茶褐色	砂粒.石英.雲母	良	∩	1.1	山			↘	
142	Q 6－144	III	深鉢A	口縁	黒褐色	砂粒.石英.雲母	良	∩	1.2	山			→	裏研磨
143	Q 4－238	III	深鉢A	口縁	暗褐色	砂粒.雲母	良	∩	0.8	山			↘	
144	O 3－110	III	深鉢A	口縁	暗褐色	砂粒.雲母	良	∩	1.1	山			↘	内壁研磨
145	S 2－79	III	深鉢A	口縁	黄灰色	砂粒.雲母	良	⊓	1.0	山			↘	
146	O 4－141	III	深鉢A	口縁	黄褐色	砂粒.石英.雲母	良	⊓	1.2	山			↘	内壁研磨
147	S 3－67	III	深鉢A	口縁	暗褐色	砂粒.雲母	良	⊓	1.2	山	0.82		→	
148	M 2－145	III	深鉢A	口縁	黄褐色	砂粒.雲母		⊓	0.8	山			↘	内壁研磨
149	N 2－165	III	深鉢A	口縁		砂粒.石英.雲母	良	⊓	1.0	山			→	内壁研磨
150	R 6－136,37	III	深鉢C	口縁	茶褐色	砂粒.石英.雲母	良	∩	1.0	山	0.7		→,↘	内壁研磨
151	E 1－101	III	深鉢C	口縁	淡黄色	砂粒.石英.雲母	良	⊓	1.2	山	0.6		→	
152	A－514	III	深鉢C	口縁	茶褐色	砂粒.雲母	良	⊓	1.3	山			→	裏研磨
153	P 6－91	III	深鉢C	口縁	暗褐色	砂粒.雲母(多)	良	∩	1.4	山	0.63		→	施文を一部ナデ消す

Tab. 7 土 器 観 察 表 ④

番号	出土区番号	層位	器形	部位	色調	胎土	焼成	口唇形	器壁	文様	原体 直径	原体 長	施文方向	備考
154	Q 7 −71	Ⅲ	深鉢C	口縁	暗黄褐色	砂粒.雲母.長石	良	⌐	1.2	山			→	内壁研磨
155	P 5 −153	Ⅲ	深鉢C	口縁	暗茶褐色	砂粒.雲母	良	∩	1.1	山			↘	内壁研磨,外壁一部スス
156	S 3-126,130	Ⅲ	深鉢D	口縁	暗褐色	砂粒.雲母	良	⊓	1.1	山	0.73		→	口径17.5cm
157	P 5 −125	Ⅲ	深鉢E	口縁	暗褐色	砂粒(多)	良	∩	0.8	山			→	口径13.4cm
158	G 1 −31	Ⅲ	深鉢E	口縁	茶褐色	砂粒.雲母.長石	良	∩	1.1	山			→	
159	N 3 −69	Ⅲ	深鉢E	口縁	暗黄褐色	砂粒.雲母	良	∩	1.2	山	0.76	2.4	→,↘	口径20.2cm
160	O 4 −162	Ⅲ	深鉢E	口縁	暗茶褐色	砂粒.石英.雲母	良	⌐	0.9	山			↘	内壁研磨
161	R 6 −17	Ⅲ	深鉢E	口縁	暗茶褐色	砂粒.石英.雲母	良	⊓	1.0	山	0.76		→,↘	
162	V 4 −41	Ⅲ	深鉢F	口辺部	黄褐色	砂粒.雲母.長石	良		1.1	山	0.63		↘	内壁研磨
163	F 1 −92,93	Ⅱ	深鉢A	胴下半部	茶褐色	砂粒.石英.雲母	良		0.9	山			→	内壁研磨
164	R 4 −107	Ⅱ	深鉢A	胴部	黄灰色	砂粒.石英.雲母	良		1.2	山			→	
165	F 2 −94	Ⅱ	深鉢A	胴下半部	黄褐色	砂粒.石英.長石	良		1.4	山	0.76		→	胎土に黒曜石を含む
166	S 6 −16	Ⅱ	深鉢A	胴部	茶褐色	砂粒.石英.雲母	良		1.2	山	0.7		→	外壁にスス
167	G 2 −95	Ⅱ	深鉢A	胴部	暗褐色	砂粒.石英(多)	良		1.3	山	0.82		→	
168	D −191	Ⅱ	深鉢A	胴下半部	灰褐色	砂粒.石英.雲母	良		1.1	山			→	小型深鉢,内壁研磨
169	P 6 −70	Ⅱ	深鉢A	胴部	茶褐色	砂粒.石英.雲母	良		1.7	山			→	
170	S 6 −10,11	Ⅱ	深鉢A	胴部	暗褐色	砂粒.石英.雲母	良		1.2	山	0.57		↘	
171	G 1 −23,24	Ⅱ	深鉢A	胴部	黄褐色	砂粒.雲母.長石	良		1.1	山			↘	内壁研磨
172	F2-90,92,101,105	Ⅱ	深鉢A	胴下半部	茶褐色	砂粒.石英.雲母	良		1.1	山	0.73		↗	
173	R 5 −43,47	Ⅱ	深鉢A	胴部	茶褐色	砂粒.雲母.長石	良		1.4	山			→	内壁研磨
174	N 2 −27,28	Ⅱ	深鉢A	胴部	暗褐色	砂粒.石英.長石	良		0.9	山			→	内壁研磨
175	E 1 −19	Ⅱ	深鉢A	胴部	暗黄灰色	砂粒.長石.雲母	良		1.2	山			→	内壁研磨
176	T 3 −43	Ⅱ	深鉢A	胴部	茶褐色	砂粒.長石.雲母	良		1.2	山			↘	
177	R 5 −70	Ⅱ	深鉢A	底辺部	黄褐色	砂粒.石英.雲母	良		1.1	山			↘	内壁全面コゲあり
178	B −205,270	Ⅱ	深鉢A	胴部	暗褐色	砂粒(多).石英.雲母	良		1.3	山	0.73		↘	
179	A −198	Ⅱ	深鉢A	胴部	暗褐色	砂粒.石英.雲母	良		1.2	山	0.66		↘	
180	A −144	Ⅱ	深鉢A	胴部	茶褐色	砂粒(多).石英.雲母	良		1.3	山			↘	
181	O 7 −22	Ⅱ	深鉢A	胴部	黄褐色	砂粒.雲母.石英.長石	良		1.2	山	0.73		→	
182	A −203	Ⅱ	深鉢A	胴部	茶褐色	砂粒.石英.雲母	良		1.3	山	0.66		→	
183	A −254	Ⅱ	深鉢B	胴下半部	黄褐色	砂粒(多).石英.雲母	良		1.3	山			↘	施文は浅く間のび
184	O 4 −28	Ⅱ	深鉢B	胴部	茶褐色	砂粒.雲母.風化細礫	良		1.0	山			→	
185	R 3 −59	Ⅱ	深鉢B	胴下半部	暗褐色	砂粒.雲母.石英	良		1.3	山			↘	内壁研磨
186	B −16	Ⅱ	深鉢B	胴部	赤褐色	砂粒.石英.雲母	良		1.0	山			↘	
187	S 5 −75	Ⅱ	深鉢B	胴部	茶褐色	砂粒.石英.雲母	良		1.6	山			→	
188	S 4 − 7	Ⅱ	深鉢B	胴部	黄褐色	砂粒.雲母.長石	良		1.3	山			→	
189	S 4 −37	Ⅱ	深鉢B	胴部	暗褐色	砂粒.雲母.石英	良		1.1	山	0.73		→	内壁に凹凸あり
190	U 4 − 7	Ⅱ	深鉢B	胴部	暗茶褐色	砂粒.雲母.石英	良		1.3	山	0.63		↘	内壁研磨
191	I 1 −13,19	Ⅱ	深鉢D	胴部	黄灰色	砂粒.風化細礫.長石	良		良	山	0.82		↘	
192	R 5 −16	Ⅱ	深鉢D	胴部	黄褐色	砂粒.石英.長石.雲母	良		1.5	山			→	施文は緻密
193	Q 4 −183	Ⅱ	深鉢D	胴部	淡黄色	砂粒.石英.長石.雲母	良		1.2	山	0.73		↗	
194	N 3 − 3	Ⅱ	深鉢D	胴部	暗黄褐色	砂粒.雲母.長石	良		1.2	山	0.66		↘	内壁研磨
195	O 5 −3,4,5	Ⅱ	深鉢D	胴部	茶褐色	砂粒.石英.長石.雲母	良		0.9	山	0.66		↘	内壁研磨
196	B −259	Ⅱ	深鉢D	口縁	黄褐色	砂粒.石英.長石	あまい		1.1	山			→	口径33.8cm
197	R2-143,R1-18	Ⅱ·Ⅲ	深鉢E	口縁	暗黄褐色	砂粒.石英.雲母	良	⊓	1.3	山	0.66	2.5	→,↘	口径41.2cm
198	O 4 −30	Ⅱ	深鉢E	口縁	暗黄褐色	砂粒.石英.長石	良	⊓	1.4	山	0.73	2.7	↘	口径32cm
199	F1-1,99,F2-40	Ⅱ·Ⅲ	深鉢E	口辺部	黄褐色	砂粒.雲母.長石	良		1.0	山	0.76		→	復元口径45cm
200	O 3 −表土		深鉢	胴下半部	黒褐色	砂粒.石英.雲母	良		1.1	山			→	内壁研磨
201	R 5 −34	Ⅱ	深鉢	胴部	赤褐色	砂粒.石英.雲母	良		1.2	山			↘	内壁指頭押圧調整
202	S 2-41,43,44	Ⅱ	深鉢	胴下半部	茶褐色	砂粒.石英.長石.雲母	良		1.2	山	0.85		→	下半にコゲあり
203	S 3 −40	Ⅱ	深鉢	底辺部	茶褐色	砂粒.石英.雲母	良		1.3	山			→	内壁にススあり
204	Q 4 −178	Ⅱ	深鉢	底辺部	黄褐色	砂粒.雲母.長石	良		1.2	山			→	内壁研磨凹凸あり

Tab. 8 土 器 観 察 表 ⑤

番号	出土区番号	層位	器形	部位	色調	胎土	焼成	口唇形	器壁	文様	原体 直径	原体 長	施文方向	備考
205	R 3 −23	II	深鉢	底辺部	赤褐色	砂粒.石英.雲母	良		1.2	山			↘	裏研磨,施文は粗大で雑
206	I 1 − 5	II	深鉢	底辺部	黒褐色	砂粒.石英.雲母	良		1.4	山	0.7		→	
207	S 1 −24	II	深鉢	胴下半部	茶褐色	砂粒.雲母.長石	良		1.2	山	0.73		→	裏研磨,裏一部ススあり
208	F 1 −69	II	深鉢	底辺部	茶褐色	砂粒.雲母	良		1.1	山			↘	裏研磨
209	Q 2 −42	II	深鉢	胴部	茶褐色	砂粒.雲母	良		1.1	山	0.57		↗,→	裏研磨,一部にススあり
210	G 2 −52	II	深鉢	胴部	赤褐色	砂粒.雲母	良		1.1	山			↓	
211	R 2 −33	II	深鉢	底辺部	茶褐色	砂粒.石英.雲母.長石	良		1.1	山			→	
212	S 4 −46	II	深鉢	胴部	黄褐色	砂粒.石英.雲母	良		1.2	山	0.63		→	裏研磨
213	S 4 −114	III	深鉢	胴下半部	黄褐色	砂粒.雲母	良		1.1	山			↗	裏研磨
214	S 4 −116	III	深鉢	胴下半部	黄褐色	砂粒.雲母	良		1.2	山			→	裏研磨
215	S 4 −122	III	深鉢	胴部	黒褐色	砂粒.雲母	良		1.0	山	0.76		↘	表に一部スス,裏研磨
216	P 4 −158	III	深鉢	胴部	茶褐色	砂粒.雲母	良		1.1	山			→	
217	P 5 −142	III	深鉢	胴下半部	茶褐色	砂粒.雲母.長石	良		1.0	山			→	
218	T 4 −31	III	深鉢	胴部	茶褐色	砂粒.石英.雲母	良		1.3	山	0.73		→	裏研磨,施文は細く緻密
219	E 1 −98	III	深鉢	胴部	茶褐色	砂粒.雲母	良		1.1	山			↘	
220	F1-13,G-9	II,III	深鉢	胴部	黄褐色	砂粒.雲母.長石	良		1.0	山	0.66		↘	裏研磨
221	R 6 −12	III	深鉢	胴下半部	茶褐色	砂粒.雲母	良		1.3	山	0.7		↘	
222	F 1 −105	II	深鉢	底部	暗黄褐色	砂粒.石英.長石.雲母	良		1.4	山			→	底径5.4cm
223	N 3 −33	II	深鉢	底部	暗黄褐色	砂粒.石英.長石.雲母	良		1.7	山	1.0		→	底径6.2cm,内壁研磨
224	P 4 −115	II	深鉢	底部	暗黄褐色	砂粒.石英.長石	良		0.7	山			↘	底径5.7cm
225	N 3 −14	II	深鉢	底部	茶褐色	砂粒.石英.長石	良		1.1	山	0.76		↘	底径5.5cm,底面に葉脈圧痕
226	Q 2 −78	II	深鉢	底部	黄褐色	砂粒.長石	良		1.3	山			↗	
227	T 2 − 2	II	深鉢	底部	黄褐色	砂粒.石英.雲母	良		1.0	山				内壁にコゲ,底面に原体圧痕
228	F 2 − 7	II	深鉢	底面	茶褐色	砂粒.石英.雲母	良		1.0					ひっかき調整
229	D −175	II	深鉢	底部	赤褐色	砂粒.雲母	良		1.3	山			↗	内壁研磨,底面ひっかき調整
230	M 2 − 8	II	深鉢	底部	暗褐色	砂粒.石英.雲母.長石	良		1.8	山	0.7		→	
231	C −77	II	深鉢	底部	暗褐色	砂粒.雲母	良		1.1	山				底径10.3cm
232	Q 2 − 9	II	深鉢	底部	赤褐色	砂粒.雲母.長石	良		1.7	山			→	底径10.6cm
233	C −40	II	深鉢	底部	暗赤褐色	砂粒.雲母	良		1.7	山			→	底径10.7cm,内壁にスス
234	P 5 −78	II	深鉢	底部	暗黄褐色	砂粒.石英.雲母	良		0.6	山			→,↗	底径10.5cm
235	C −346	II	深鉢	底部	茶褐色	砂粒(多).雲母.長石	良		1.6	山				底径10.2cm,底面に原体圧痕
236	B −73	II	深鉢	底面	茶褐色	砂粒.長石.雲母	良		1.9					ひっかき調整
237	M 2 −58	II	深鉢	底部	暗褐色	砂粒.長石	良		1.4	山				底面に葉脈圧痕
238	H12		深鉢	底部	赤褐色	砂粒.雲母	良		2.4	山	0.63		↘	底面にひっかき調整
239	H 7		深鉢	底面	暗褐色	砂粒.雲母	良		1.6					底面に葉脈圧痕
240	P 4 −161	III	深鉢	底部	黄褐色	砂粒.石英.雲母	良		1.8	山			→	底径12cm
241	O 2 −36	II	深鉢	底面	暗茶褐色	砂粒.長石.風化細礫	良		1.8					底面にも押型文
242	O 2 −124	II	深鉢	底部	赤褐色	砂粒.石英.長石	良		1.1	山			→	底径12cm
243	P 5 −115	III	深鉢	底部	暗赤褐色	砂粒.雲母	良		1.8	山			↘,↓	底径10.8cm
244	R 4 −149	II	深鉢	底辺部	黄褐色	砂粒.石英粒.雲母	良		1.5	山			↘,→	
245	N 2 −79	II	深鉢	底部	赤褐色	砂粒.石英.雲母	良		1.5	山			→	内壁にコゲ,底径10.6cm
246	F 1 −24	II	深鉢	底部	暗褐色	砂粒.雲母	良			山			→	内壁にコゲ,底に粘土の接合面
247	P4-12,13,14	II	深鉢	底部	淡黄褐色	砂粒.石英.雲母	良		1.7	山			→	底径12.2cm,底に圧痕
248	N 3 −12	II	深鉢	底部	赤褐色	砂粒.雲母	良		1.2	山			→	底径12cm,底面に圧痕
249	F 2 −90,105	II	深鉢	底部	茶褐色	砂粒.雲母	良		1.1	山			↗,→	底径13.6cm
250	O 7 − 9	II	深鉢	底部	茶褐色	砂粒.長石.雲母	良		1.6	山			→	浅い施文,底径12.2cm
251	N 2 −191	II	深鉢	底部	黄褐色	砂粒.長石.風化細礫	良		1.7	山			→	
252	R 2 −119	II	深鉢	底部	茶褐色	砂粒(多).雲母	良		2.0	山			→	底径13.2cm
253	R 5 −70	II	深鉢	底部	暗黄褐色	砂粒.長石.雲母	良		2.2	山	0.7		→	底径16.2cm,内壁に多量のコゲ
254	P 4 −72	II	深鉢	口縁胴部	暗褐色	砂粒.長石.雲母	良		0.9	楕	1.0	4.2	→,↘	内壁に原体条痕
255	P 4 −60	II	深鉢	口縁	暗褐色	砂粒.長石.雲母	良		0.9	楕			→,↘	254と同一個体

Tab. 9 土 器 観 察 表 ⑥

番号	出土区番号	層位	器形	部位	色調	胎土	焼成	口唇形	器壁	文様	原体 直径	原体 長	施文方向	備考
256	U 2 −42,48	II	深鉢	口縁	暗褐灰色	砂粒.雲母	良	⊓	0.7	楕			↘	口唇内壁に原体条痕
257	Q 5 −126	II	深鉢	口縁	暗褐色	砂粒(多).雲母	良	⊓	0.9	楕			→	口唇内壁に原体条痕
258	O 3 −33	II	深鉢	口縁	暗黄灰色	砂粒.雲母	良	∩	0.7	楕			→	口唇内壁に原体条痕
259	U 2 −28	II	深鉢	口辺部	暗褐灰色	砂粒.雲母	良		0.7	楕	0.73		↘	256と同一個体(？)
260	P 5 − 5	II	深鉢	口縁	黄褐色	砂粒.雲母	良	⊓	0.8	楕			→,↘	口径34.4cm、口唇に刻目
261	O5-14,O3-4	II	深鉢	口縁	黄灰色	砂粒.長石.雲母	良	⊓	1.2	楕	0.76		→	口唇内壁に押引き
262	O 5 −23	III	深鉢	口縁	黄灰色	砂粒.長石.雲母	良	⊓	1.2	楕	0.76		→	261と同一個体
263	O 5 −20	II	深鉢	口縁	暗黄灰色	砂粒.雲母	良	⊓	1.1	楕			→	口唇内壁に押引き
264	O 3 − 3	II	深鉢	口辺部	黄灰色	砂粒.雲母	良		1.2	楕			↘	口唇内壁に押引き
265	H 1 −10	III	深鉢	口縁	黒褐色	砂粒.雲母	良	⊓	1.2	楕			↘,↗	内・外壁にスス
266	C −126	II	深鉢	口縁	赤褐色	砂粒.石英	良	∩	1.1	楕			→	内壁研磨
267	A −197	II	深鉢	口縁	暗褐色	砂粒.雲母	良	⊓	0.7	楕			↘	外壁にスス、内壁研磨
268	E 2 −19	II	深鉢	胴部	茶褐色	砂粒.石英.雲母	良		1.1	楕			→	小粒な楕円
269	O 7 −80	III	深鉢	胴部	黄褐色	砂粒.雲母	良		0.7	楕			→	粗大な楕円
270	O 5 −24	III	深鉢	胴下半部	黄灰色	砂粒.石英.雲母	良		0.9	楕			→	
271	G 1 − 8	II	深鉢	胴部	淡黄色	砂粒.雲母	良		1.2	楕			→	小粒な楕円
272	O4-78,77,20	II	深鉢	口辺部	茶褐色	砂粒.雲母	良		1.2	楕			→	
273	A −306	III	深鉢	胴部	赤褐色	砂粒.石英.雲母	良		1.1	楕			→	
274	R 4 −199	II	深鉢B	胴部	黄褐色	砂粒.石英.雲母	良		0.9	楕			↘,↓	楕円は小粒
275	H		深鉢	胴部	暗黄褐色	砂粒.雲母	良		0.9	楕			→	
276	O 4 − 6	II	深鉢	胴部	赤褐色	砂粒	良		0.9	楕			↓	
277	N 2 −42	II	深鉢	胴下半部	暗黄褐色	砂粒.石英.雲母	良		1.0	楕			→	
278	D −320	II	深鉢	胴部	暗褐色	砂粒.雲母	良		1.1	楕			→	
279	P 4 −53	II	深鉢	底部	明褐色	砂粒.長石.雲母	良		1.2	楕			↘	底径5cm、内壁研磨
280	O 7 −44	II	深鉢	底部	明褐色	砂粒.長石.雲母	良		0.8	楕			→	
281	A −72,124	II	深鉢	口縁	茶褐色	砂粒.長石.雲母	良	∩	0.9	格			→	
282	I 2 − 8	II	深鉢	口縁	暗褐色	砂粒.長石.雲母	良	⊓	0.8	格			→	外壁にスス
283	F 1 −	II	深鉢	口縁	暗褐色	砂粒.長石.雲母	良	∩	1.0	格			→	
284	F 2 −20	II	深鉢	口縁	黄褐色	砂粒.雲母	良	∩	0.9	格			↘	口径10.2cm
285	B −34,67	II	深鉢	口縁	暗褐色	砂粒.長石.雲母	良	∩	1.2	格			↗	内壁研磨
286	D −368	II	深鉢	口縁	暗褐色	砂粒.風化細礫.雲母	良	∩	1.1	格			↘	
287	B −28	II	深鉢	口縁	暗茶褐色	砂粒(多).長石.雲母	良	⊓	0.9	格			→	原体は小さい
288	S 2 −18	II	深鉢	口縁	黄褐色	砂粒.石英	良	⊓	1.2	格			↘	
289	A −118	II	深鉢	口縁	茶褐色	砂粒.風化細礫(多)	良	⊓	1.0	格			↙	内壁口唇部のみ研磨
290	S 2 −147	II	深鉢	口縁	暗褐色	砂粒.長石.雲母	良	∩	1.1	格			→	
291	N 3 −85	III	深鉢	口縁	淡黄色	砂粒.石英.長石	良	⊓	1.2	格			↘	内壁研磨
292	O 4 −189	II	深鉢	口縁	黄灰色	砂粒.長石.雲母	良	⊓	1.1	格			↗	
293	S 4 −75	II	深鉢	口縁	黄灰色	砂粒.長石.雲母	良	⊓	0.8	格			→	内壁研磨
294	F 2 −73	III	深鉢	口縁	黄灰色	砂粒.長石.雲母	良	∩	0.9	格			→	
295	M 2 −54	II	深鉢	口縁	暗褐色	砂粒.雲母	良	∩	1.0	格・山			↗,↗	山形文＋格子目文
296	E 1 −15	II	深鉢	口縁	黄褐色	砂粒.石英.長石.雲母	良	⊓	1.0	格			→	内壁指頭押圧調整
297	N 3 −94	II	深鉢	口縁	暗褐色	砂粒.風化細礫(多)	良	⊓	1.2	格			→	
298	O 4 −187	III	深鉢	口縁	茶褐色	砂粒.雲母	良	∩	0.9	格			→	
299	D-185,222,367	II	深鉢	口縁	暗褐色	砂粒.風化細礫(多)	良	∩	1.2	格			→	外壁にスス
300	D −160	II	深鉢	口縁	茶褐色	砂粒.長石.雲母	良	∩	0.8	格			→	口唇外壁に無文帯
301	B −92	II	深鉢	口縁	黄灰色	砂粒.長石.雲母	良	⊓	1.0	格			↗	口径20,6cm、内壁研磨
302	A-459,461,464	II	深鉢	口縁	茶褐色	砂粒(多).石英.雲母	良	∩	1.0	格			→,↗	外壁下部にスス
303	D −110,184	II	深鉢	胴部	茶褐色	砂粒(多).石英.雲母	良		1.2	格			↘	外壁にスス
304	D-117,183,414	II	深鉢	胴部	茶褐色	砂粒(多).石英.雲母	良		1.2	格			↘	303と同一個体
305	F −30	II	深鉢	胴部	黄褐色	砂粒.石英	良		1.6	格			→	外壁にスス
306	S 2 −117	II	深鉢	胴部	黄褐色	砂粒.長石.雲母	良		0.9	格			↘	

Tab. 10 土 器 観 察 表 ⑦

番号	出土区番号	層位	器形	部位	色調	胎土	焼成	口唇形	器壁	文様	原体 直径	原体 長	施文方向	備考
307	D－129	II	深鉢	胴部	黄褐色	砂粒.長石.雲母	良		1.0	楕			↘	
308	Q 2 －72	II	深鉢	胴部	暗茶褐色	砂粒.石英.雲母	良		1.0	格			→	内壁研磨
309	A－214	II	深鉢	胴部	黄褐色	砂粒.石英.長石	良		1.0	格			→	内壁研磨
310	G 2 －27	II	深鉢	胴下半部	黄灰色	砂粒.石英.長石	良		1.2	格			↘	
311	N1-29,31,43	II	深鉢	胴部	暗茶褐色	砂粒.長石.雲母	良		1.3	格			↗	内壁研磨
312	B-280, A-137	II	深鉢	胴部	茶褐色	砂粒.長石.雲母	良		1.2	格			↗	外壁にスス
313	G2-47,49,74	II	深鉢	胴部	暗褐色	砂粒.石英.長石	良		1.0	格			↗	外壁にスス
314	G 2 －28	II	深鉢	胴部	黄灰色	砂粒.風化細礫(多)	良		1.1	格			↘	
315	N 2		深鉢	胴部	茶褐色	砂粒.石英.雲母	良		1.4	格			→	土擴内
316	G 2 － 2	II	深鉢	胴部	黄褐色	砂粒.石英.長石.雲母	良		1.0	条·格			→	格子＋条痕
317	R 1 －16,17	II	深鉢	底部	黄褐色	砂粒	良		1.5	格	0.86	2.3	→	内壁にスス、底径12.8cm
318	D－281	II	深鉢	口縁	黒褐色	砂粒.石英.雲母	良	∩	0.7	無				
319	S 2 －121	II	深鉢	口縁	暗黄褐色	砂粒.風化細礫.長石	良	∩	0.9	無				
320	D－211	II	深鉢	口縁	黄灰色	砂粒.長石.雲母	良	∩	0.9	無				
321	S 3 －14	II	深鉢	口縁	黄褐色	砂粒.石英	良	∩	1.0	無				
322	D－28	II	深鉢	口縁	暗褐色	砂粒.細礫.長石	良	∩	0.9	無				
323	S 4 －99	II	深鉢	口縁	黄褐色	砂粒.細礫.石英	良	∩	1.1	無				
324	S 4 －123	II	深鉢	口縁	暗黄灰色	砂粒.細礫.長石	良	⊓	1.0	無				
325	S 4 －100	II	深鉢	口縁	黄灰色	砂粒.長石	良	∩	0.5	無				
326	R 5 －33	II	深鉢	口縁	茶褐色	砂粒.細礫	良	∩	0.8	撚			↘	口径9.8cm、内壁にスス
327	S 2 －50	II	深鉢	口縁	黄褐色	砂粒.石英.長石	良	⊓	1.0	撚			↘	
328	A－177	II	深鉢	口縁	暗褐色	砂粒.石英.長石	良	⊓	0.9	撚			↘	
329	O 2 －71	II	深鉢	胴部	暗褐色	砂粒.石英.長石	良		1.1	撚			↘	
330	R 3 － 5	II	深鉢	胴部	淡赤褐色	砂粒.石英.長石.雲母	良		1.2	撚			↘	
331	U 2 －63	II	深鉢	底辺部	黄褐色	砂粒.長石	良		1.3	撚			↘	外壁にスス
332	S 4 －40	II	深鉢	胴下半部	黄褐色	砂粒.長石	良		1.1	縄			↘	
333	R 4 －201	II	深鉢	胴部	暗灰色	砂粒.細礫.長石	良		1.1	縄			→	
334	S 4 －41	II	深鉢	口縁	黄灰色	砂粒.細礫	良	∩	1.1	縄				内壁研磨
335	F 2 －67	III	深鉢	口縁	暗褐色	砂粒、風化細礫		∩	1.3	条			↗,→	
336	O 2 －73,108	II	深鉢	口縁	暗茶褐色	砂粒.石英.雲母	良	∩	1.0	条			→	内壁研磨
337	Q 1 －17	II	深鉢	底辺部	赤褐色	砂粒.雲母.長石	良		1.3	条			→	
338	Q 1 －39	II	深鉢	胴部	茶褐色	砂粒.雲母	良		1.1	条			↘	内壁研磨
339	Q 1 － 5	II	深鉢	胴部	暗褐色	砂粒.石英.雲母	良		1.1	条			↗	内壁研磨
340	N 2 －90	II	深鉢	胴部	暗黄灰色	砂粒.石英.雲母.長石	良		1.3	条				
341	S 1 － 7	II	深鉢	胴部	茶褐色	砂粒.長石	良		1.1	条			↗	
342	U 2 － 5	II	深鉢	胴部	赤褐色	砂粒.石英.長石	良		0.9	沈			→	外壁にスス
343	U 2 －71	III	深鉢	胴部	赤褐色	砂粒.石英.長石	良		0.9	沈			→	
344	U 2 － 4	II	深鉢	胴部	赤褐色	砂粒.石英.長石	良		0.9	沈			→	外壁にスス
345	U 2 －40	II	深鉢	胴部	赤褐色	砂粒.石英.長石	良		0.9	沈			→	外壁にスス
346	U 2 －52	II	深鉢	底部	赤褐色	砂粒.細礫.長石	良		0.8	沈			→	
347	U 2 －51	II	深鉢	胴部	赤褐色	砂粒.細礫.長石	良		0.8	沈			→	346と同一個体か(？)
348	T 4 －40	III	深鉢	胴下半部	黄褐色	砂粒.長石.雲母	良		1.0	連			→	
349	T 1 －62	II	深鉢	胴部	暗褐色	砂粒.石英.長石	良		1.0	条(?)			↘	
350	R 2 － 3	II	浅鉢	口縁	淡茶褐色	砂粒.雲母	良		0.5	無				内外壁共研磨
351	B472	II	浅鉢	口辺部	明茶褐色	砂粒.石英.雲母	良		0.6	無				内外壁共研磨
352	H－40		壺	口縁	茶褐色	砂粒.雲母	良		0.5	無				内外壁共研磨
353	T 2 －15,16	II	深鉢	口縁	暗褐色	砂粒.石英.長石	良	∩	0.8	無				
354	T 3 －16	II	鉢	口縁	暗褐色	砂粒.雲母	良	∩	0.7	条			↘	内壁研磨
355	V 1 － 8	II	鉢	口縁	暗褐色	砂粒.雲母	良	∩	0.8	無				外壁にスス
356	T3-12,14,55	II	鉢	胴部	黒褐色	砂粒.石英	良		0.7	条			→	外壁全面にスス
357	R 4 －67	II	深鉢	口縁	黄灰色	砂粒	良	⊓	0.8	無				内外壁共ヘラ研磨

Tab. 11 土 器 観 察 表 ⑧

番号	出土区番号	層位	器形	部位	色調	胎土	焼成	口唇形	器壁	文様	原体 直径	原体 長	施文方向	備考
358	T 3 −3,4,18	II	深鉢	胴下半部	暗茶褐色	砂粒.雲母	良		0.6	無				内壁研磨
359	R 4 −39	II	深鉢	胴部	淡褐色	砂粒.石英.雲母	良		0.7	条			→	外壁にスス
360	T 5 −20	II	深鉢	胴部	淡黄色	砂粒.雲母	良		0.8	条			↘	
361	T 3 −8, 9	II	深鉢	胴部	暗褐色	砂粒.雲母	良		0.7	条			→	屈曲部に突起
362	T 1 −22	II	深鉢	胴部	淡黄色	砂粒	良		0.9	条			→	屈曲部に突起
363	S 2 −H14		深鉢	胴部	黄褐色	砂粒.長石	良		0.8	条			↘	
364	S 2 −H		深鉢	胴部	暗褐色	砂粒.長石	良		0.8	条			→	内壁研磨
365	T 5 −H 1		深鉢	底部	暗赤褐色	砂粒.雲母	良		1.7	無				
366	E −H 1		深鉢	底部	赤褐色	砂粒.石英	良		2.5	無				
367	B − 8	II	壺	底部	黄灰色	砂粒.雲母	良		0.7	無				内、外壁共全面ヘラ研磨

調査に参加した人達（２次調査）

2. 石　　器

第１次，第２次調査で得た出土総点数は2,326点で，時代別にみると，層位的に捉えるまでには至っていないが，先土器時代の石器と縄文時代の石器に区分できる。

弘法原遺跡の基本層位での遺物包含層は２層と３層の２枚に区別され，そのいずれもが縄文時代の文化層であり，先土器時代の文化層は未確認である。地点によっては地山までの間にその検出をみないところから，先土器時代の包含層はごく狭い範囲に堆積しているのかも知れない。

○ナイフ形石器（Fig. 63-1，PL. 62～63）

１点出土している。先端部から約1.5cmのところで折れている。また，先端部も僅かに欠損している。入念なブランティングを施しており，形態的に良く整っている。漆黒の良質の黒曜石を使用し，比較的大形の石刃からの作出と考えられる。

○ドリル（Fig. 63—2～3：　PL. 62～63）

2は黒曜石製で，長さ3.6cmと比較的小形で分厚い剥片を使用し，入念な調整剥離を加えている。断面は三角形を呈し，尖頭器状の形態をなす。

3は黒曜石製で大形の横剥ぎの剥片を利用し主要剥離面にはヒンジが作出され，ネガティブ・バルブは指でつまむのに適するように配慮してある。錐部は短かいが，丁寧な調整剥離が加えられて作出されている。周縁，基部には加工をみない。**2**は発掘資料であり，**3**は表採資料である。両者とも先土器時代の石器と考えられる。

○グレイバー（Fig. 63-4，PL. 62～63）

１点のみの出土である。黒曜石製。第一次剥片で，片面に自然面を残す。主要剥離面にはポジティブ・バルブをそのまま残し，折断後樋状剥離を加えた反対辺には入念な調整剥離を施している。樋状剥離を１条有している。

○ポイント（Fig. 63-5～7，PL. 62～63）

２点とも黒曜石を使用している。**8**は横剥ぎの剥片を利用し，片面に調整加工を入念に施しているが，他面はバルブを除去するための剥離を僅かに加えるのみで，主要剥離面を残している。断面はレンズ状を呈する。

9は第１次剥片が使用され，自然面をそのまま残す。調整剥離も荒く，全体的に扁平に仕上げられている。中途で折損し基部のみの出土である。

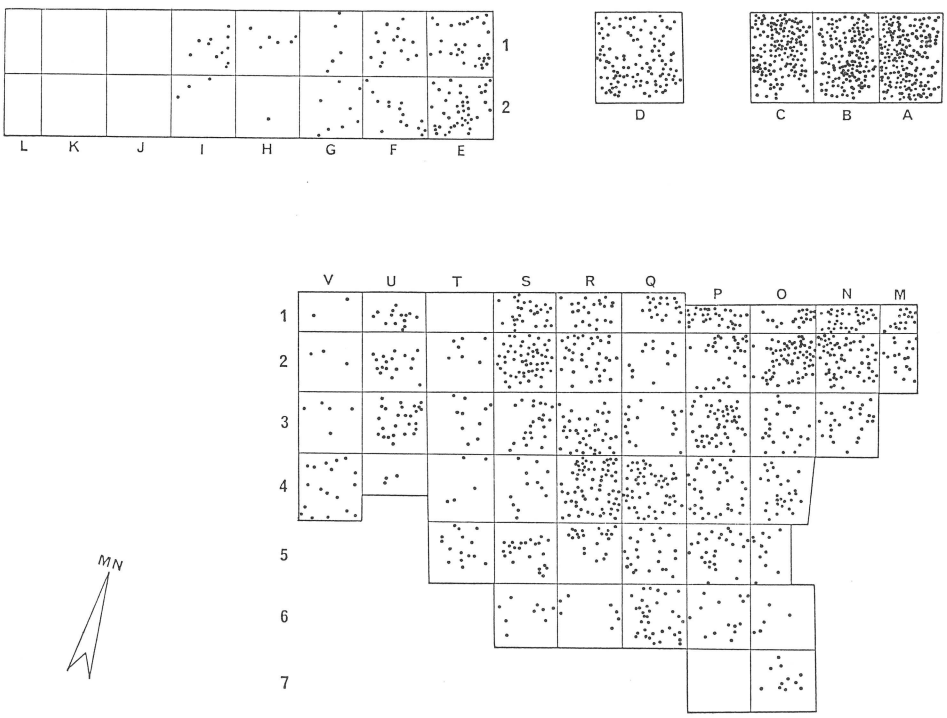


Fig. 59　出土石器平面分布図

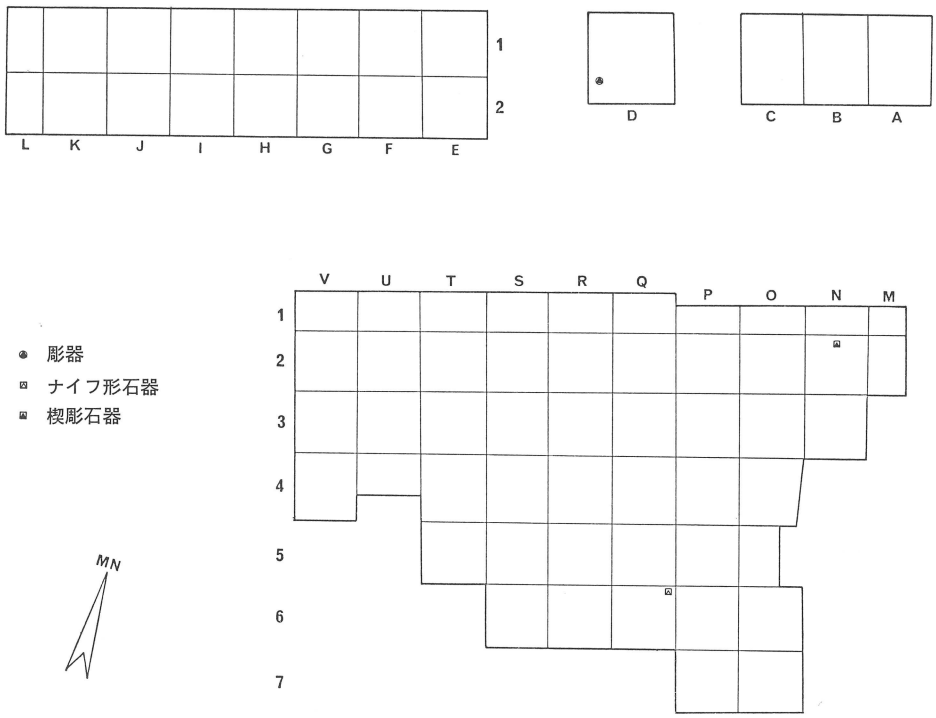


Fig. 60　石器平面分布図（ナイフ形石器・彫器・楔形石器）

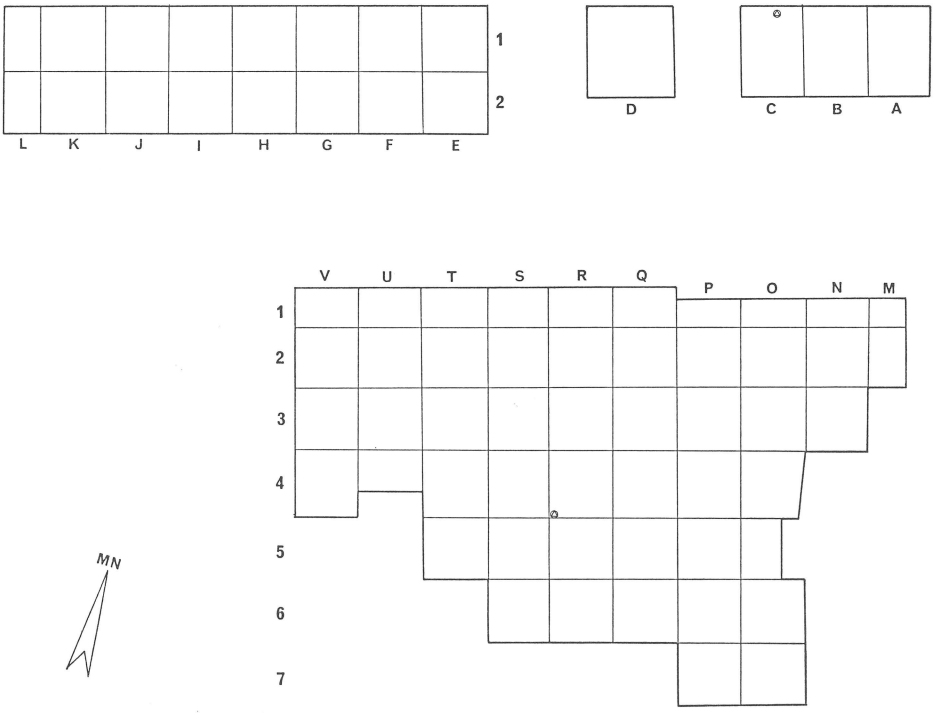


Fig. 61　石器平面分布図（ポイント）

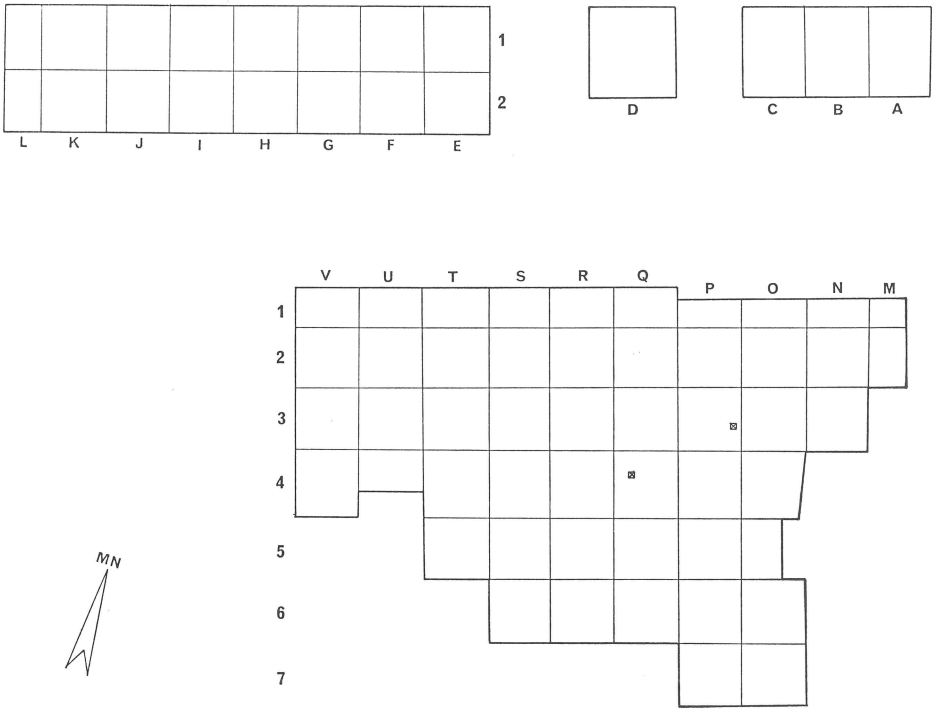


Fig. 62　石器平面分布図（石錐）

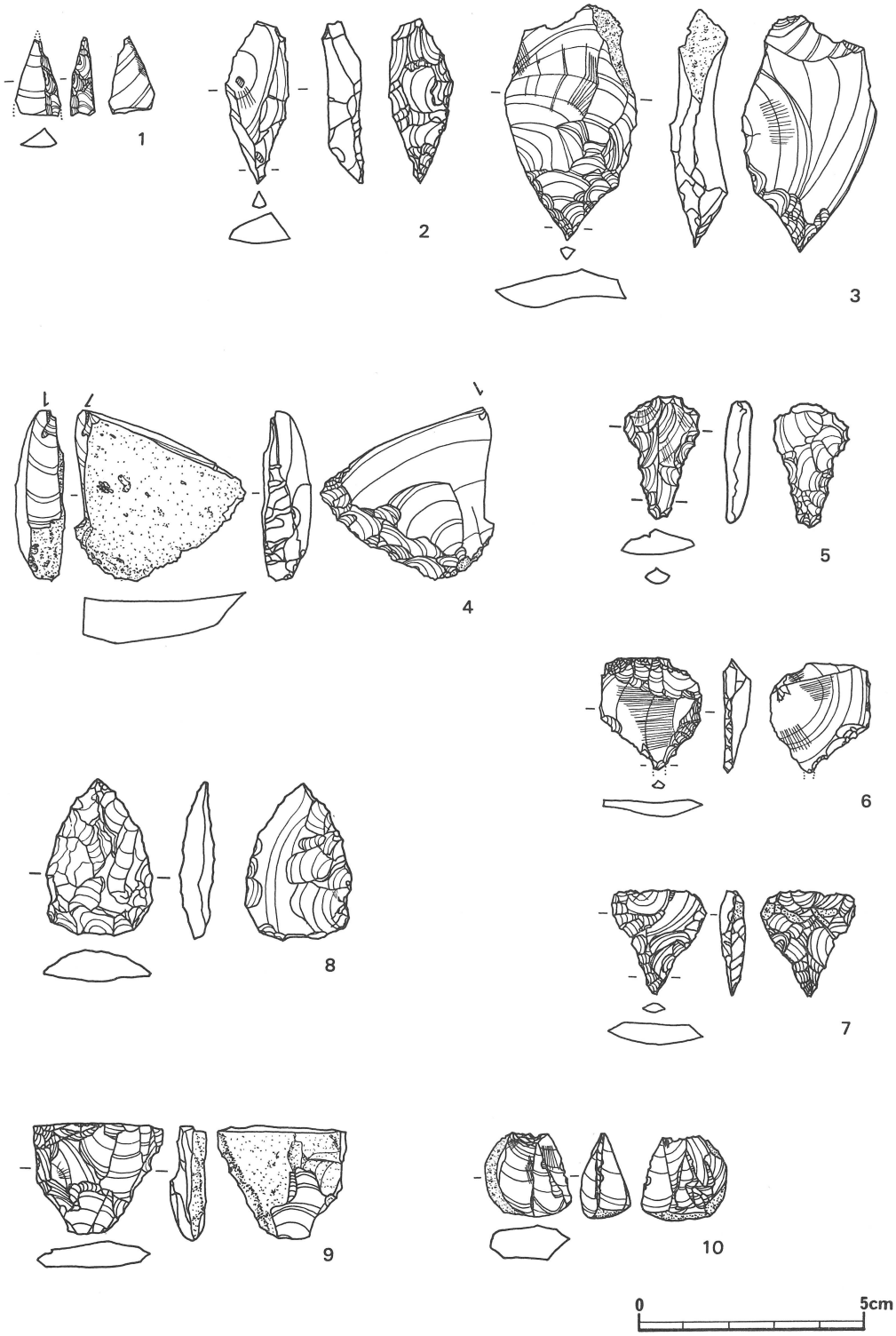


Fig. 63　ナイフ形石器・ドリル・グレイバー・楔形石器実測図（$\frac{2}{3}$）

◦**楔形石器**（Fig. 63-10，PL. 62〜63）

漆黒で良質の黒曜石の小円礫を用いている。剥離はいずれも片側からのみ行っており，側面観は完全な楔形の形態となる。（他にも類似品があるが，）ここでは完全に分類できるもの1点のみを抽出・掲載した。

◦**石匙**（Fig. 65-11〜14，PL. 64〜65）

縦型1点，横型3点合計4点出土している。両者間にいくつかの共通点を有す。まず，石材の利用は安山岩によっていること，次に剥片が大形で扁平であること，主要剥離面を表裏ともに残すこと，剥片自体が湾曲すること，刃部が粗い調整加工により作出されていること等である。つまみ部は縦型が粗く大きく，剥片に両側辺よりノッチを入れたにすぎず，プラットフォームやポジティブ・バルブをそのまま残す。14が比較的入念な調整剥離を行っており，つまみ部も細かい剥離で小さくまとめあげている。

◦**スクレイパー**（Fig. 67-15〜25，Fig. 68-26〜29，Fig. 69-30，PL. 66〜69）

サイド・スクレイパーとエンド・スクレイパーがあり，その中でも調整加工が丁寧なものと粗いものに区別できる。黒曜石を使用したものは小形で調整剥離が入念であるのに対して，安

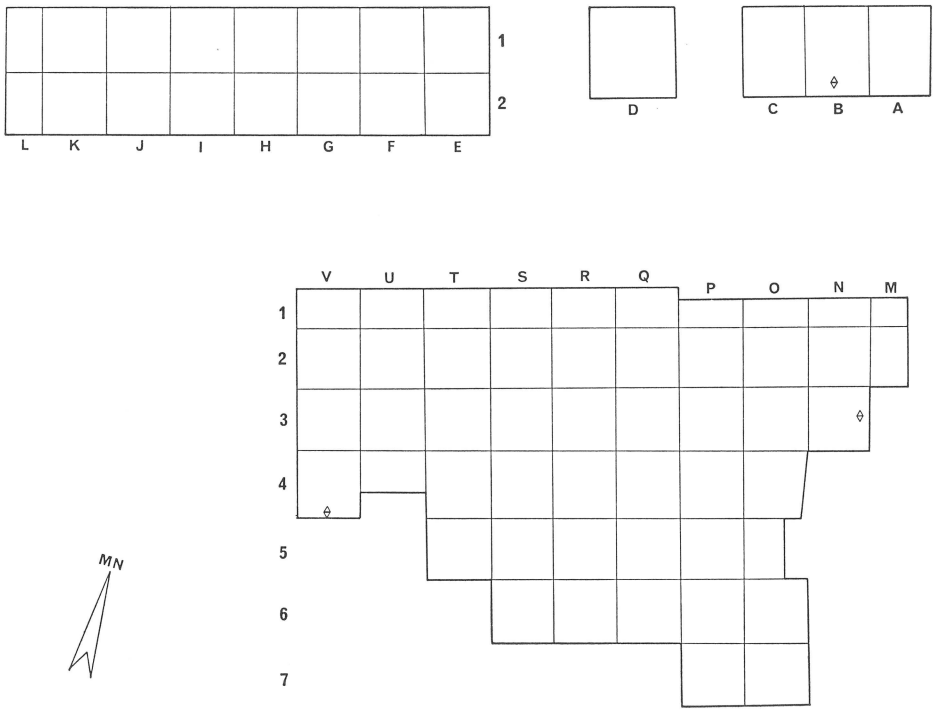


Fig. 64　石器平面分布図（石匙）

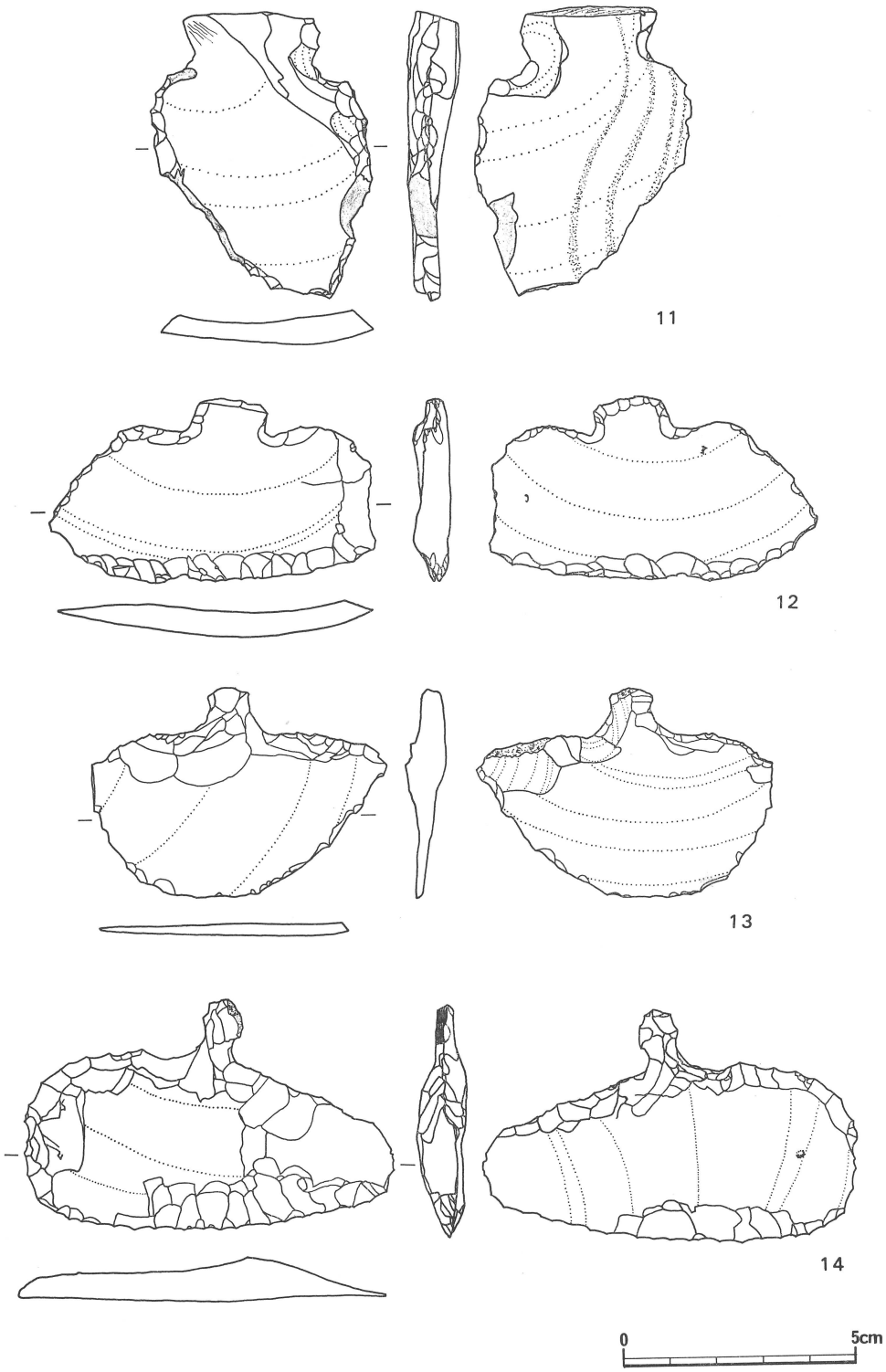


Fig. 65　石匙実測図（$\frac{2}{3}$）

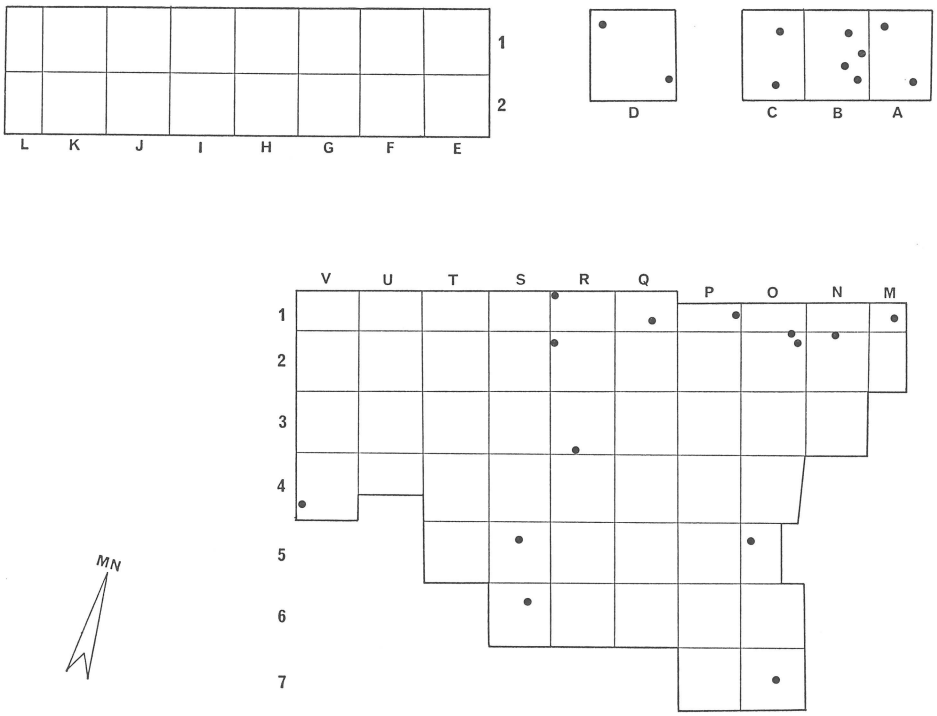


Fig. 66　石器平面分布図（スクレイパー）

山岩を使用したものは単に比較的大形の剥片に粗い調整加工を施しただけのものという石材による相異もみられる。

15～20，**22～25**は小形で入念な調整加工が施された一群であるにもかかわらず，素材の原形を比較的良く留めている。**20**は周辺全部に調整剥離が加えられており，とくに片辺にはブランティング状の加工がなされており，他の石器の可能性を秘めており注目される。**23**は両面加工が施され，上端は母材のままの状態を残し，断面は楔形を呈すが，広義のラウンド・スクレイパーの範疇に入るだろう。**24**は早期に良くみられるもので，入念な調整加工を施して丁寧に作出している。**28～30**は安山岩の大形剥片を使用し，粗い調整剥離を加え，刃部を作出したサイド・スクレイパーである。**30**はその中でも一番大きく長さが10.5cmを測る。

Tab. 12　出土石器組成表

No.	名　　称	数量	%	No.	名　　称	数量	%	No.	名　　称	数量	%
1	ナイフ形石器	1		9	石　鏃	112	4.8	17	凹　石	14	0.6
2	ドリル	2		10	石　核	44	1.8	18	石　皿	3	0.1
3	グレイバー	1		11	フレイク	486	20.9	19	砥　石	4	0.1
4	ポイント	3	0.1	12	U．フレイク	62	2.6	20	原　石	166	7.1
5	楔形石器	1		13	チップ	1,212	52.1	21	不明石器	5	0.2
6	石　匙	3	0.1	14	石　斧	12	0.5	22	その他	5	0.2
7	スクレイパー	16	0.7	15	スリ石	166	7.1				
8	石　錐	3	0.1	16	敲　石	5	0.2		合　　計	2,326	10.0

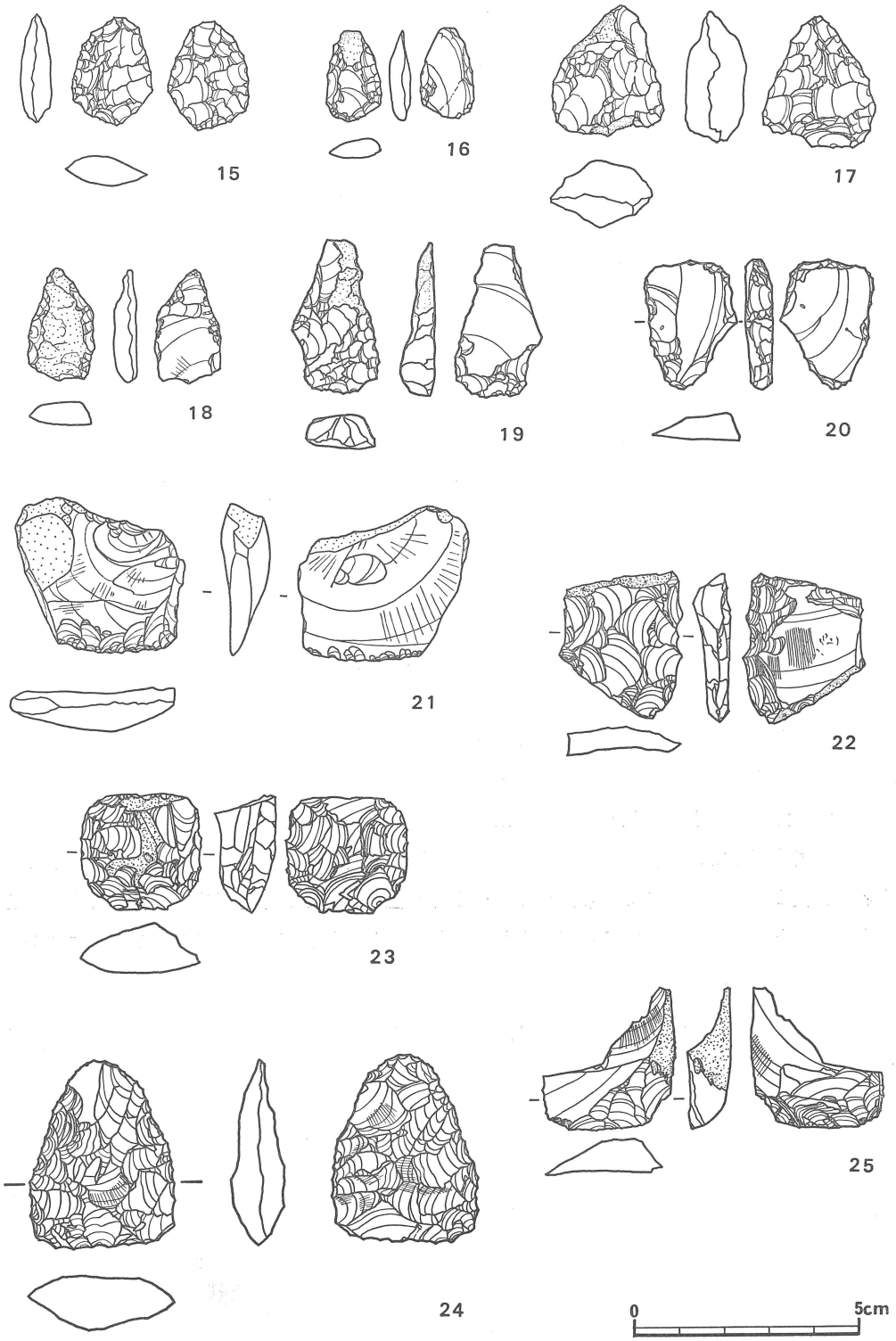


Fig. 67　スクレイパー実測図①（$\frac{2}{3}$）

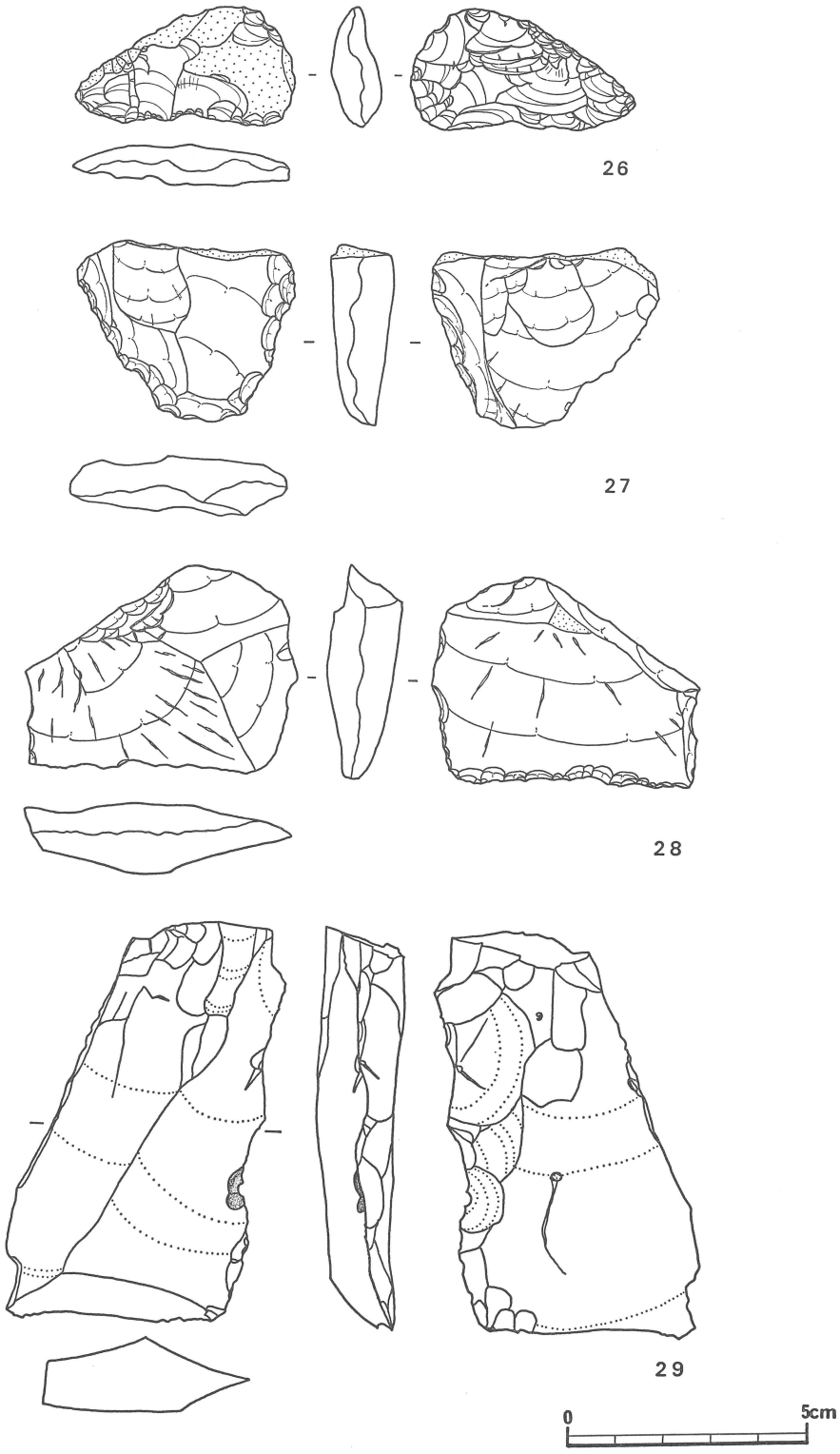


Fig. 68　スクレイパー実測図②（$\frac{2}{3}$）

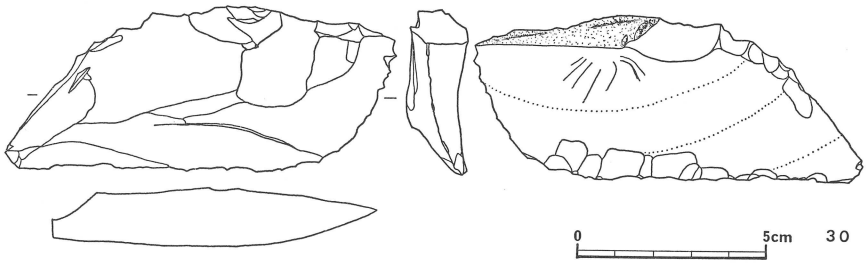


Fig. 69　スクレイパー実測図③（$\frac{1}{2}$）

◦石鏃（Fig. 70～75，PL. 76～79）

弘法原遺跡からは計130点の石鏃が出土した。そのうちⅡ層出土のもの55点，Ⅲ層出土のものが23点である。破損部位一覧表（Fig. 77）で全体における完形品の割合を石材別にみてみると，黒曜石の場合 36/111 で36％，安山岩の場合 11/16 で69％になり，黒曜石の方が破損率が高いという傾向を示している。130点中104点を図示したが，まず形態別に3類に分類[註1]した（Fig. 78）。Ⅰ類は側縁が直線をなすもので，脚部下端が水平に直線をなすものと，脚部が尖がるものがある。Ⅱ類は側縁が外湾するもので，脚部下端がほぼ水平に直線をなすものと脚部が丸くなるものがある。Ⅲ類は尖端部と脚部に特徴を有するもので，尖端部が丸いか又は脚部が大きくなり幅広になるものである。次にⅠ類の中でも基部の形状によって細別し平基のものを

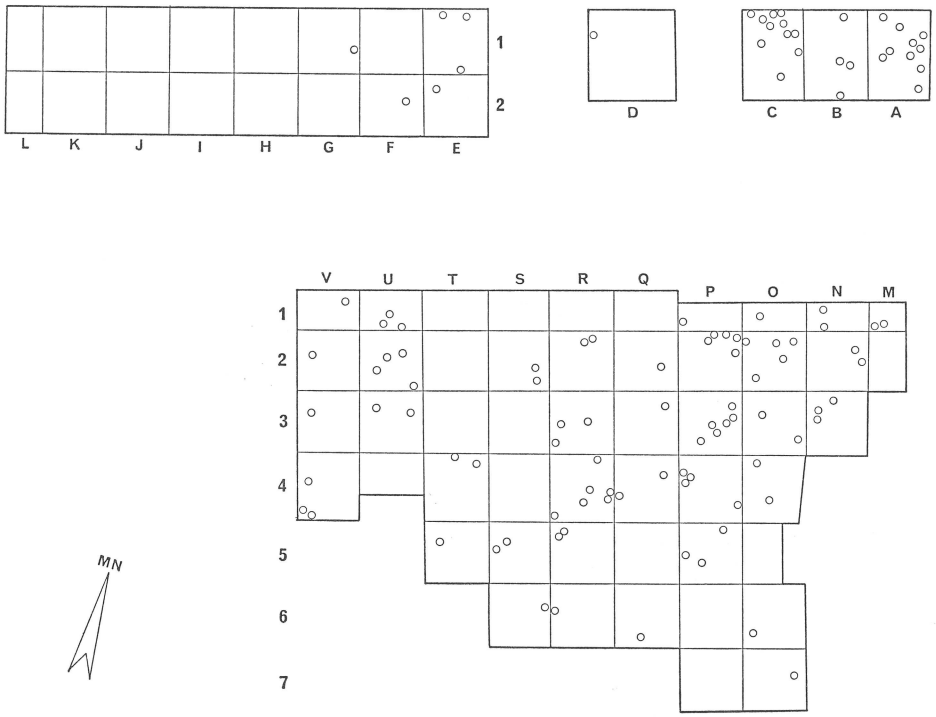


Fig. 70　石器平面分布図（石鏃）

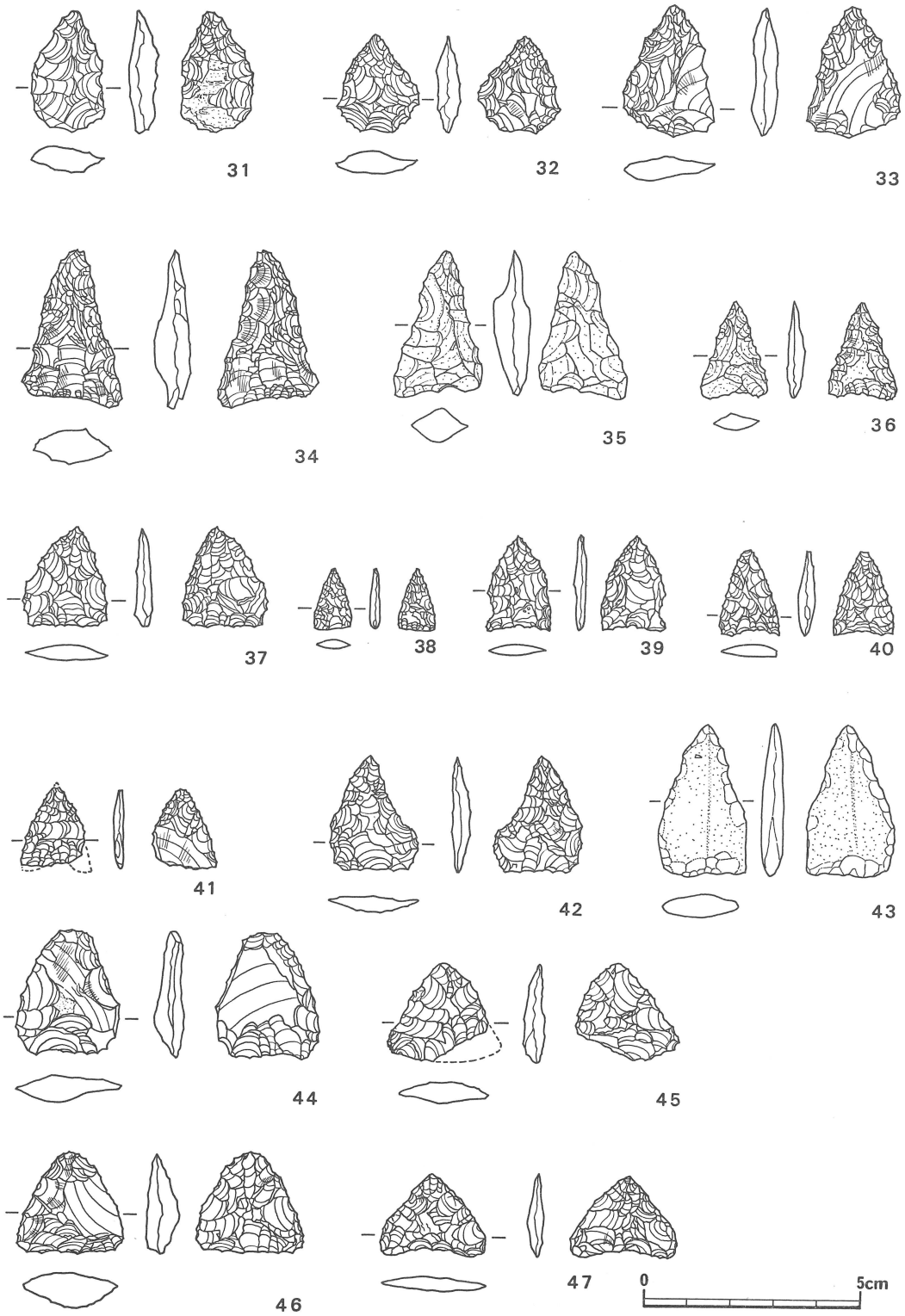


Fig. 71　石鏃実測図①（$\frac{2}{3}$）

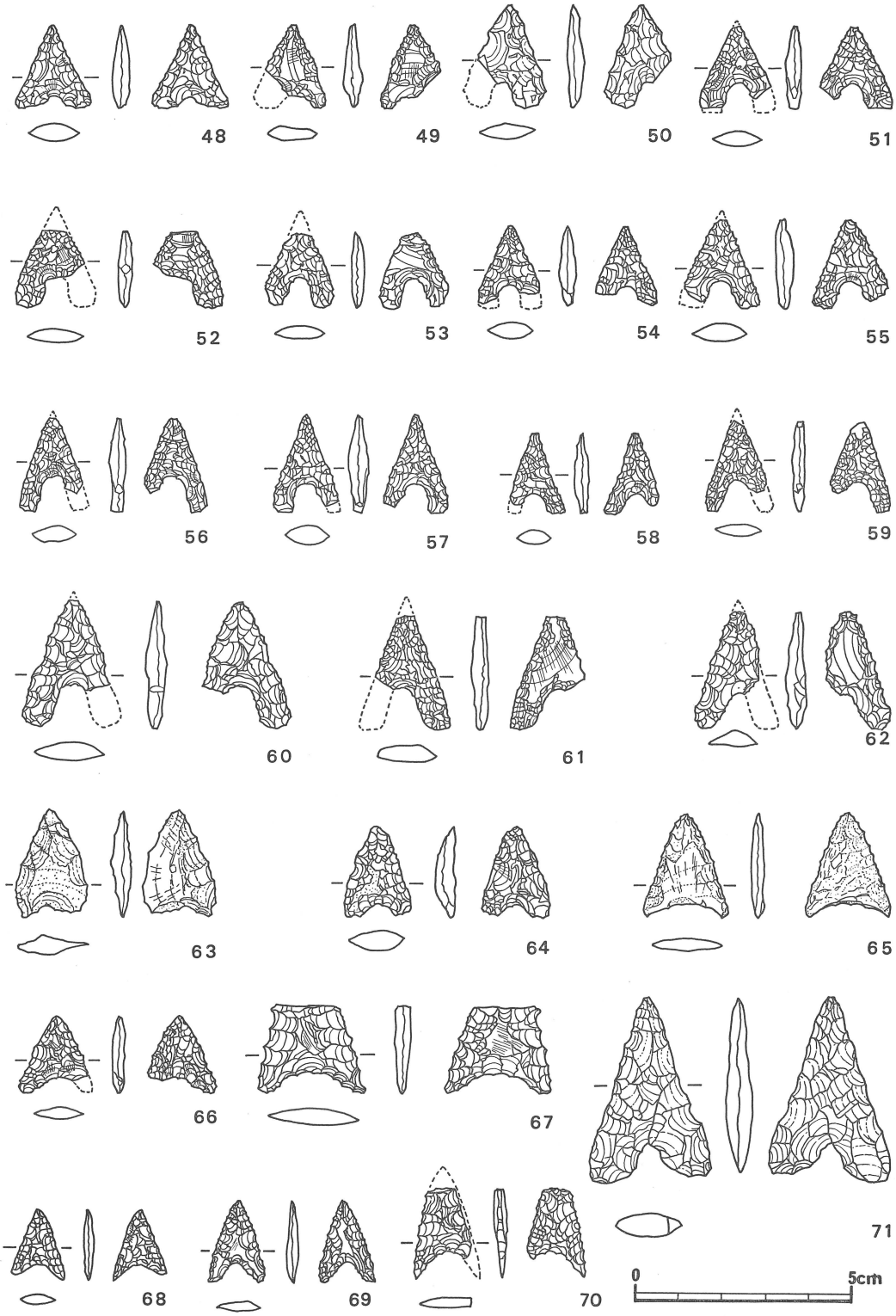


Fig. 72　石鏃実測図②（$\frac{2}{3}$）